VERISERVE

最終更新日　2019/05/13

目次

第 1 章 はじめに 8

1.1. テスト管理クラウド QualityForward 8

1.2. サポート環境 8

第 2 章 ユーザ管理 9

2.1. ユーザサインイン 9

2.1.1. パスワード再設定 10

2.2. ユーザ管理 11

2.2.1. ユーザを招待する 11

2.2.2. ユーザをテナントから削除する 14

2.3. ユーザ設定を変更する 15

2.3.1. プロフィール設定を変更する 15

2.3.2. パスワードを変更する 17

2.4. テナントを切り替える 17

2.5. アクセス権限を付与する 18

2.5.1. テナントのユーザ権限を変更する 18

2.6. テナントの使用量 19

第 3 章 初期設定 21

3.1. 新規プロジェクトを作成する 22

3.1.1. プロジェクトの基本設定 22

3.1.2. テスト結果のラベルを設定する 23

3.1.3. テスト結果補足を設定する 23

3.1.4. テストスイートのテスト定義項目ラベルを設定する 24

3.1.5. テスト結果部の項目ラベルを設定する 25
3.2. プロジェクトにユーザを追加する 26
3.3. プロジェクト設定を変更・削除する 27
3.3.1. プロジェクト設定を変更する 27
3.3.2. API キーを発行する 28
3.3.3. プロジェクトをアーカイブする 28
3.3.4. プロジェクト設定を削除する 29
第 4 章 進捗管理 31
4.1. ダッシュボード 31
4.1.1. 成分バーと期限バー 31
4.1.2. 実施中のテストフェーズ 32
4.1.3. 最近完了したテストフェーズ 32
4.1.4. 実施中のテストサイクル 33
4.1.5. レビュー待ちのテストサイクル 33
4.1.6. 最近完了したテストサイクル 33
第 5 章 テストケースの管理 35
5.1. テストスイートを作成する 35
5.1.1. テストスイートの基本設定 35
5.1.2. テスト定義の項目を設定する 36
5.1.3. カバレッジパネルの集計に利用する項目設定 37
5.1.4. テスト結果の自由項目を設定する 38
5.1.5. 初期バージョンを設定する 39
5.1.6. ファイルを添付する 39
5.2. テストケース取込 41
5.2.1. テストケース取込 41

5.3. エクセルスマートインポート 44
5.3.1. エクセルスマートインポート 44
5.4. テストケース作成 49
5.4.1. オンライン編集 49
5.5. テストスイート設定を変更・削除する 52
5.5.1. テストスイート設定を変更する 52
5.5.2. テストスイートを削除する 52
5.6. テストスイートにヘッダを追加する 53
5.7. 新しいバージョンのテストスイートを作成する 55
5.7.1. 新しいバージョンの基本設定 55
5.7.2. テストスイートバージョンにタグ付けをする 56
5.7.3. テストスイートバージョンのステータスを設定する 58
5.8. テストスイートバージョン設定を変更・削除する 59
5.9. テストスイートをロックする 59
5.10. テストスイートをダウンロードする 61
5.11. カバレッジパネルを利用する 62
第 6 章 テストフェーズの管理 65
6.1. テストフェーズを作成する 65
6.1.1. テストフェーズの基本設定 65
6.1.2. 対象のテストスイートバージョンを設定する 66
6.2. BTS 連携を行う 67
6.2.1. Redmine と連携する 67
6.2.2. Redmine のベース URL を設定する 68
6.2.3. バグ一覧取得用の URL を設定する 69
6.2.4. 最近のインシデント取得用 URL を設定する 71

6.2.5. JIRA と連携する 71
6.2.6. JIRA のユーザ名とパスワードを入力する 72
6.2.7. JIRA の URL・コンテキストパスを設定する 72
6.2.8. JQL を設定する 73
6.2.9. バグやクローズの文字列を設定する 74
6.3. テストフェーズ設定を変更・削除する 76
6.3.1. テストフェーズ設定を変更する 76
6.3.2. テストフェーズを削除する 76
第 7 章 テストサイクルの管理 78
7.1. テストサイクルを作成する 78
7.2. 予実設定を管理する 79
7.2.1. 予実設定を入力する 79
7.2.2. 予実設定を初期化する 80
7.3. テストサイクル設定を変更・削除する 81
7.3.1. テストサイクル設定を変更する 81
7.3.2. テストサイクルを削除する 81
7.4. テストサイクルをエクスポートする 82
第 8 章 実行管理 83
8.1. テストを実行する 83
8.2. 文字列の配置を変更する 85
8.3. 列の表示・非表示を切り替える 86
8.4. テスト結果補足の設定内容を確認する 87
8.5. テストケースを編集する 88
8.6. テスト結果をエクスポートする 89
8.7. テスト結果をインポートする 91

8.8. 掲示板でテスト状況の報告を行う 92
8.9. レビューを依頼する 94
8.10. レビュー依頼を差し戻す 95
8.11. レビューを完了する 97
8.12. 関連ファイルを確認する 99
8.13. 実行時間を確認する 99
8.14. 更新履歴管理 100
第 9 章 レポート管理 101
9.1. プロジェクト全体のレポート 101
9.1.1. 収束曲線(総数) 101
9.1.2. 収束曲線(変動) 102
9.1.3. プロジェクト全体のカバレッジパネル 103
9.1.4. フェーズ一覧 105
9.2. フェーズ毎レポート 105
9.2.1. フェーズ毎のカバレッジパネル 105
9.2.2. 収束曲線(総数) 106
9.2.3. 収束曲線(変動) 107
9.2.4. 欠陥実績数を CSV で登録する 108
9.2.5. 進捗の内訳 110
9.2.6. 最近のインシデント 111
9.2.7. バグ優先度別チャート 112
9.2.8. ステータス別チャート 112
9.2.9. 実績推移表 113
9.2.10. 実績推移表をエクスポートする 114
9.3. レポート設定 115

9.3.1. フッターのラベルを変更する.....115
9.3.2. レポートのラベルを変更する.....116
第 10 章 チーム Wiki の管理.....119
10.1. チーム Wiki の作成.....119
10.1.1. ページを新規作成する.....119
10.1.2. ファイルを添付する.....120
10.1.3. ページを追加する.....122
10.2. チーム Wiki を編集・削除する.....122
10.2.1. ページを編集する.....122
10.2.2. ページを削除する.....123

第1章　はじめに

このたびは、ベリサーブのクラウド、QualityForward へご興味をもっていただき誠にありがとうございます。本章では QualityForward をご利用いただく際に必要な基本情報をご説明します。

1.1. テスト管理クラウド QualityForward

QualityForward は高度なテスティングサービスを日々提供し、産学連携の技術開発にも貢献し続けるベリサーブのクラウドテスト管理サービスです。

現場の管理・分析・設計ノウハウ、および研究機関との共同開発の成果を、クラウド、そしてエンジニアを通じて、ご活用いただけます。

1.2. サポート環境

本節では、QualityForward がサポートするブラウザ、外部連携について説明します。

1.ブラウザ

ブラウザ	備考
Google Chrome 最新版 (推奨)	
Internet Explorer11 または Microsoft Edge 最新版	

2.外部連携

Redmine 又は JIRA と同期することで､バグのオープンクローズチャートを QualityForward 上で確認することが可能です。

BTS	サポートバージョン	備考
Redmine	2.0 以上	Redmine の REST API を利用します
JIRA	7.0 以上	JIRA の REST API を利用します

第2章　ユーザ管理

本章では、ユーザ情報の管理について説明します。

2.1. ユーザサインイン

(1)　トップ画面のサインインボタンを押します。

(2)　招待を承認済みのメールアドレスとパスワードを入力してサインインボタンを押します。

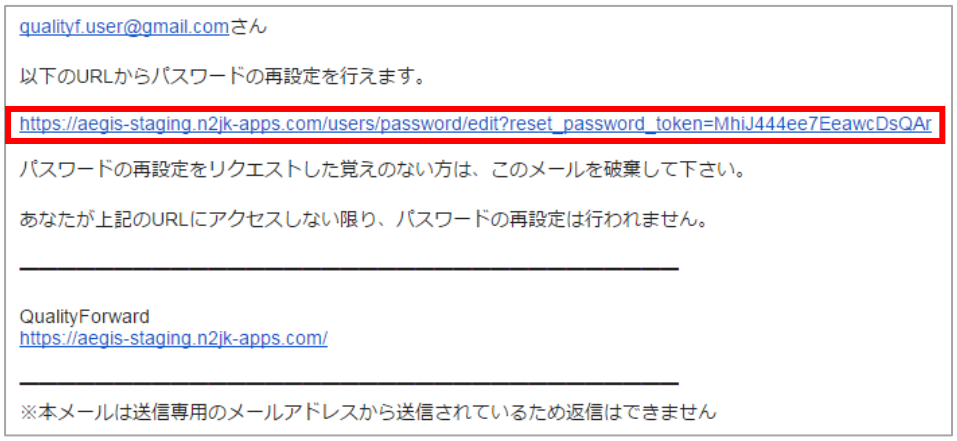
2.1.1.　パスワード再設定

パスワードを忘れてしまった場合はパスワードの再設定が必要です。ここでは、パスワードを再設定する方法を説明します。

(1)　サインイン画面より、”パスワードをお忘れの場合“をクリックしてください。

(2)　パスワードを再設定したいアカウントのメールアドレスを入力し、パスワード再発行ボタンを押します。パスワード再設定のためのメールが入力されたメールアドレス宛に送付されます。

(3)　送信されたメールから、パスワード再設定のための URL をクリックします。



(4)　パスワード欄と確認用パスワード欄に新しく設定したいパスワードを入力し、パスワード変

更ボタンを押します。

2.2. ユーザ管理

現状の QualityForward ではユーザは所属するプロジェクト以下の、テストフェーズ、サイクルに対し読み込み・書き込みの権限を持ちます。テスト業務をスムーズに遂行するために、プロジェクトに所属する要員であれば誰でも自由に資料にアクセスできた方が良い、という考え方が背景にあります。所属しないプロジェクトに関しては、読み込み・書き込みのどちらも行うことができません。

2.2.1. ユーザを招待する

ゲストがユーザとしてサインインを行うには、ユーザの招待が必要です。通常、招待されたユーザはいずれかのテナントに属します。ユーザの招待はテナント管理者権限を持つユーザのみが行え、プロジェクト管理者または一般ユーザは新たにユーザを招待することができません。本項ではテナント管理者が新しくユーザを招待する方法を説明します。

(1) 画面右上のアカウント名をクリックするとユーザメニューが表示されます。ここで“テナントのユーザ管理”をクリックします。

(2)　テナントのユーザ一覧の右上にあるユーザ招待ボタンを押します。

(3)　招待したいユーザのメールアドレスを入力します。

(4)　ユーザを招待する際に、参加させるプロジェクトの選択ができ、プロジェクトの管理者としての権限を与えることもできます。

招待するユーザにプロジェクト管理者としての権限を与えたい場合は、管理者のチェックボックスにチェックを入れます。

管理者権限が不要な場合は、参加のチェックボックスにのみチェックを入れます。

(5)　招待メールを送るボタンを押します。

※テナントの権限で「テナント管理者」を選択している場合、プロジェクト設定は表示されません。

(6)　入力したメールアドレス宛に招待メールが送信されます。招待メールから、招待を承認する

ための URL をクリックします。

(7)　名前とパスワードを入力し、続けるボタンを押します。

※本画面で設定したお名前が、テスト結果のテスター欄に記入されます。お名前、メールアドレス、パスワードは後から変更可能です。

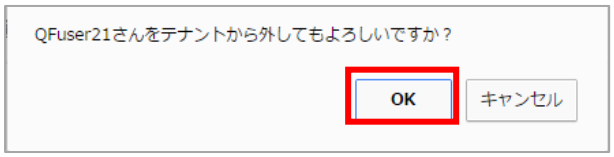
2.2.2.　ユーザをテナントから削除する

登録ユーザのアカウントを削除する方法について説明します。

(1)　画面右上のアカウント名をクリックするとユーザメニューが表示されます。ここで“テナントのユーザ管理”をクリックします。

(2)　一覧から、停止するユーザのメールアドレス横にあるテナントから外すボタンを押します。

(3)　停止の確認メッセージダイアログボックスが表示されたら OK ボタンを押します。



2.3. ユーザ設定を変更する

ユーザ毎にアカウントの設定を変更することができます。

2.3.1.　プロフィール設定を変更する

以下の手順でユーザの名前、メールアドレスの変更ができます。

(1)　画面右上のアカウント名をクリックするとユーザメニューが表示されます。ここで“ユーザ設定”をクリックします。

(2)　変更したい名前またはメールアドレスを入力します。

(3)　ファイルを選択ボタンを押し、プロフィールに設定したい画像を選択します。

(4)　変更したい箇所の入力を終えたら更新ボタンを押します。

2.3.2.　パスワードを変更する

以下の手順でパスワードの変更ができます。

(1)　画面右上のアカウント名をクリックするとユーザメニューが表示されます。ここで“ユーザ設定”をクリックします。

(2)　現在のパスワードと新しいパスワードを入力し、更新ボタンを押します。

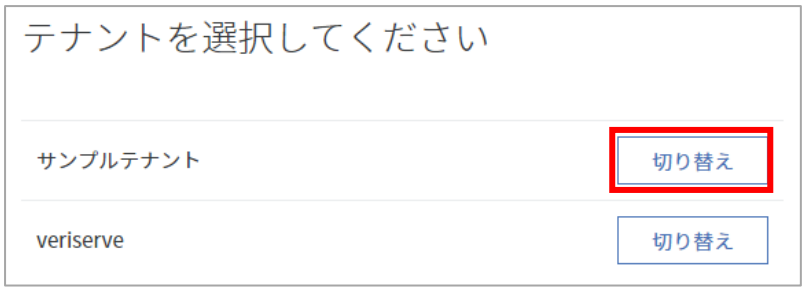
2.4. テナントを切り替える

複数テナントに属するユーザはログインした状態でテナントを切り替えることができます。

(1)　画面右上のアカウント名をクリックするとユーザメニューが表示されます。ここで“テナントの切り替え”をクリックします。

※ユーザが属するテナントがひとつの場合、テナント切り替えメニューは表示されません。

(2)　切り替えたいテナント名の右側にある切り替えボタンを押します。



2.5. アクセス権限を付与する

ユーザの権限レベルにより、ユーザをテナントへ招待したり、プロジェクトへの招待・管理者設定を行うことができます。

それぞれの権限での実行可能機能は以下の通りです。

↓権限種別　行えること→	ユーザを自分が所属しているテナントに招待する	テナントへの招待時にプロジェクト管理者への権限付与	既存ユーザへのテナント管理者権限の付与・はく奪	既存ユーザへのプロジェクト管理者権限の付与・はく奪	プロジェクトの作成・削除	自分の管理下のプロジェクトへのユーザ追加・削除	自分が所属するテナントへのチーム作成	自分の管理下のプロジェクトの設定変更	自分がアクセス権限を持つプロジェクト内のテストスイートのロック・ロック解除	自分がアクセス権限を持つプロジェクト資産(プロジェクト以下全て)の編集	自分の名前、メールアドレス、パスワードの変更
テナント管理者	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロジェクト管理者	×	×	×	○	×	○	×	○	○	○	○
一般ユーザ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○

2.5.1.　テナントのユーザ権限を変更する

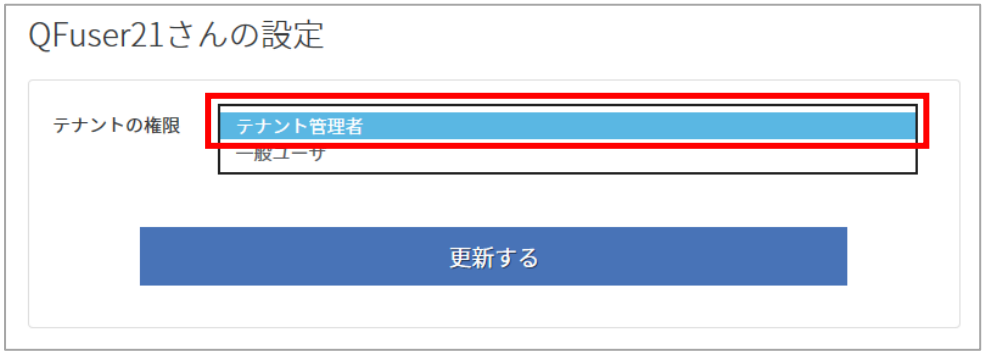
ユーザの権限が「テナント管理者」の場合、他のユーザに対しテナント管理者権限の付与または

一般ユーザへの変更を選択できます。

(1)　画面右上のアカウント名をクリックするとユーザメニューが表示されます。ここで“テナントのユーザ管理”をクリックします。

(2)　テナントのユーザ一覧から権限を変更したいユーザの設定変更ボタンを押します。

(3)　テナントの権限リストボックスから権限を選択します。



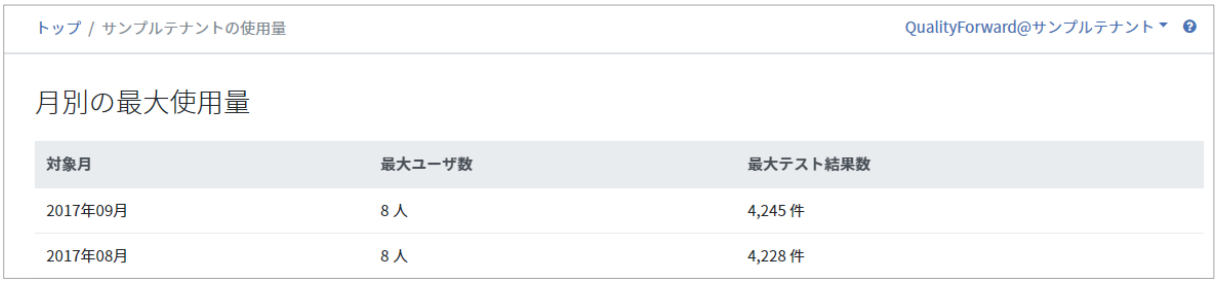
(4)　更新ボタンを押します。

2.6. テナントの使用量

テナント全体の最大ユーザ数と最大テスト結果数を月毎に確認することができます。

(1)　画面右上のアカウント名をクリックするとユーザメニューが表示されます。ここで”テナントの使用量”をクリックします。

(2)　月毎の最大ユーザ数と最大テスト結果数がこちらで確認できます。



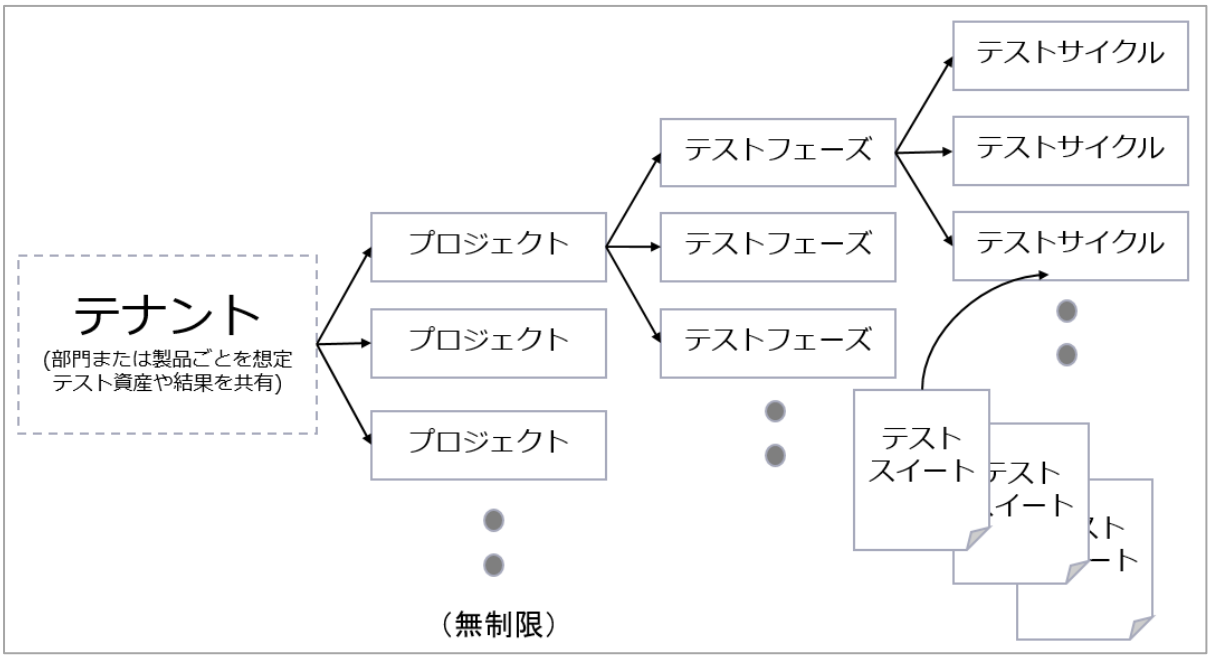
(3)　また、プロジェクト一覧でも登録済みユーザ数を確認することができます。

第3章　初期設定

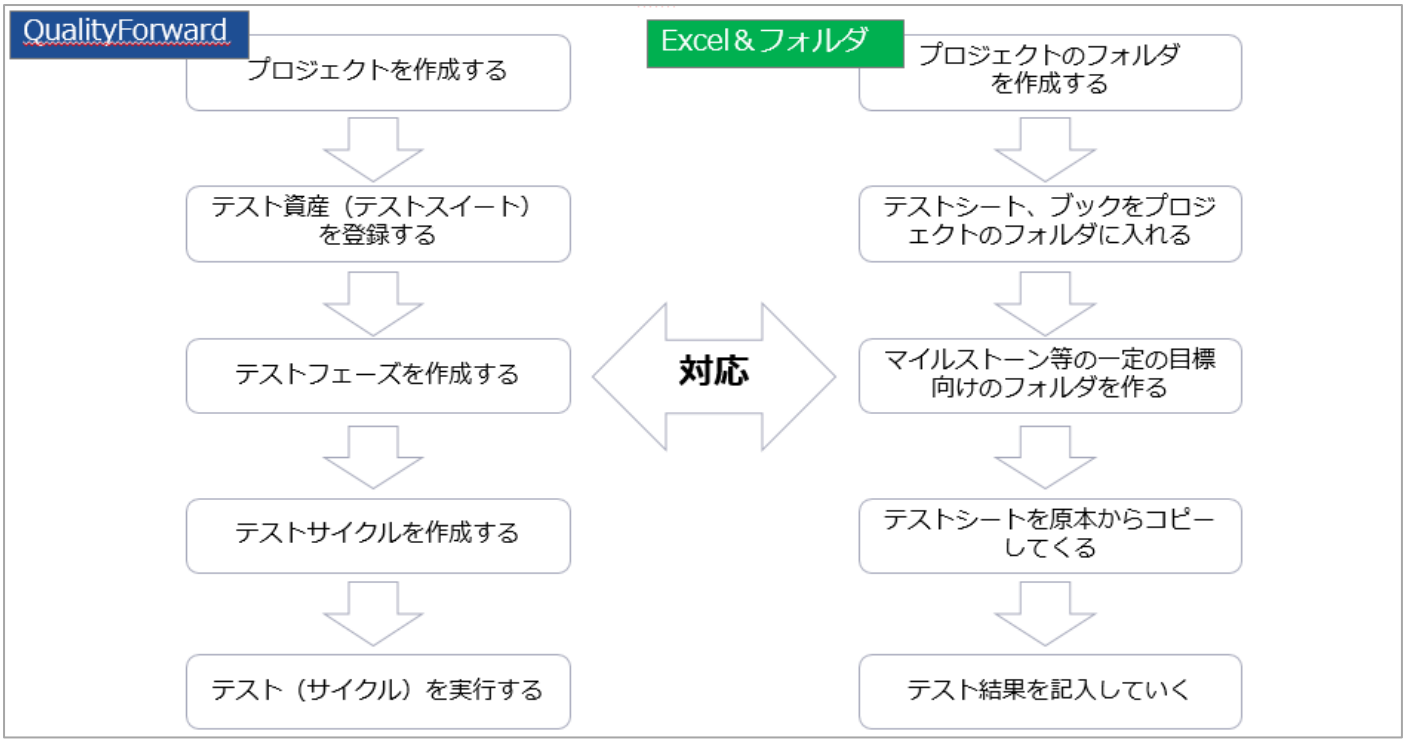
QualityForward におけるテストプロジェクトは以下のような構造を持っています。

テナントという仮想的なトップレベルの構造がお客様ごとに生成され、ログイン直後はこのテナントに属するプロジェクトの一覧が表示されます。テナントは製品ライン、プロジェクトはそのまま、一定の期間をもつプロジェクトとお考え下さい。

プロジェクトごとに、一定の期間、ボリュームが設定されたテストフェーズが存在し、フェーズの下に、プロジェクトのテストスイートから生成されたテストサイクル（テストの実行単位）が属します。



ファイルサーバのフォルダと Excel のシート、ブックを利用してプロジェクトを進める場合と、QualityForward を利用してプロジェクトを進める場合を下図で比較します。以下のように、フォルダと Excel での作業の流れとほぼ完全に対応しています。



3.1. 新規プロジェクトを作成する

プロジェクトの新規作成手順について説明します。プロジェクトの設定は後から変更可能です。

3.1.1.　プロジェクトの基本設定

(1)　ユーザサインイン後に表示されるプロジェクト一覧の右上にあるプロジェクト追加ボタンを押します。

(2)　プロジェクトの基本情報を入力します。概要説明は HTML 形式での入力が可能です。

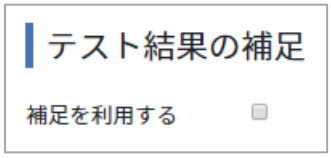
3.1.2.　テスト結果のラベルを設定する

テスト結果を入力する際のラベルを決めます。テスト結果のラベルは７種類まで設定することができます。進捗数として数えたくないテスト結果の種類がある場合、「進捗集計の対象としない」チェックをオンにします。変更の必要がない場合はそのまま登録の手順に進んでください。

3.1.3.　テスト結果補足を設定する

テスト結果を入力した後に結果の変更があった場合などに、テスト結果の補足(FAIL から PASS へ変更など)を入力することができます。このテスト結果補足は、通常のテスト結果と同様にテスト実行画面での入力が可能で実績推移表で集計が行われます。

(1)　テスト結果補足を仕様する場合は、「補足を利用する」チェックを on にします。



(2)　テスト結果が入力された場合に、結果に紐づくテスト結果補足を設定できます。入力形式は csv で「名称,説明書き」の形式で入力します。Q&A は内容の分類を追加するなどして補足

することができます。Q&A は収束曲線でも表示されます。

※一度保存をすると種類を減らすことができません。

※保存済のラベルを変更することは可能です。

3.1.4. テストスイートのテスト定義項目ラベルを設定する

テストスイートの項目名を決めることができます。ここで入力したラベルは全てのテストスイートに反映されます。テストスイートのテスト定義項目は標準で 25 項目まで(申込時オプションによって異なります)設定が可能です。使わない項目はそのまま登録してください。項目ラベルはテストスイート毎に変更することも可能です。(手順 5.1.3.参照)

3.1.5. テスト結果部の項目ラベルを設定する

テスト実行画面のテスト結果部の項目名をここで設定できます。入力したラベルは全てのテストスイートに反映されます。項目ラベルはテストスイート毎に変更することも可能です。(手順 5.1.3. 参照)

テスト結果部の項目は標準で 10 列まで使用可能です。(申込時オプションによって異なります)

全ての入力を終えたら登録するボタンを押します。ダッシュボードの画面に切り替わればプロジェクト登録完了です。

3.2. プロジェクトにユーザを追加する

テナント管理者またはプロジェクト管理者の権限を持つユーザは、テナント内のユーザをプロジェクトに招待することができます。

(1)　プロジェクトのダッシュボードからユーザ管理ボタンを押します。

(2)　プロジェクト参加ユーザ一覧の右上のユーザ追加ボタンを押します。

(3)　プロジェクトに参加していないユーザの一覧が表示されます。プロジェクトの管理者として参加させる場合は、追加するユーザの管理者チェックボックスをオンにします（このとき、参加チェックボックスも自動でオンになります）。一般ユーザとして参加させる場合は、参加のチェックボックスをオンにします。

(4)　選択が完了したら、選択したユーザを追加ボタンを押します。

3.3. プロジェクト設定を変更・削除する

作成したプロジェクトはいつでも変更することが可能です。プロジェクトの変更はどの権限のユーザでも行えますが、プロジェクトの削除はテナント権限またはプロジェクト管理者権限を持つユーザしか行えません。

3.3.1.　プロジェクト設定を変更する

(1)　トップ画面から変更したいプロジェクト名のリンクをクリックします。

(2)　プロジェクトのダッシュボード画面右上の設定ボタンを押します。

(3)　変更したい項目の入力を終えたら、更新するボタンを押してください。

3.3.2.　APIキーを発行する

QualityForward はテストスイート、テスト結果データへの、ウェブ API によるフルアクセス(CRUD)をサポートしております。

これらの API を利用して、組み合わせテストの自動生成や、独自ルールでの集計等が実現可能です。

WebAPI キーは以下の手順で発行できます。

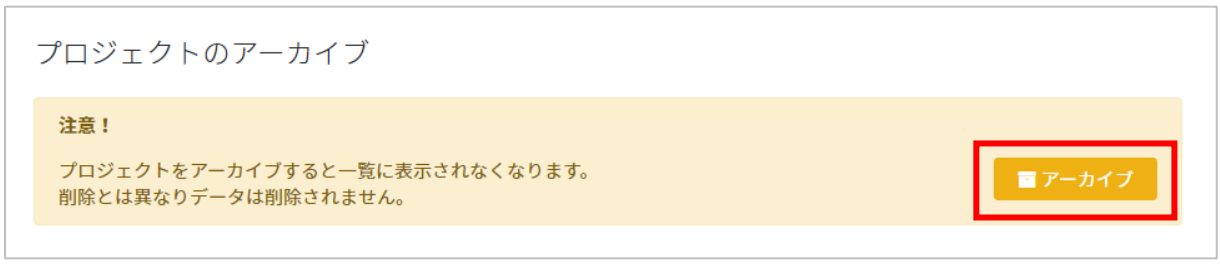
(1)　プロジェクト設定画面を開きます。

(2)　API キー欄横の生成ボタンを押します。

3.3.3.　プロジェクトをアーカイブする

終了したプロジェクトはプロジェクトの一覧から外し、整理することができます。アーカイブはプロジェクト管理者以上の権限を持つユーザのみ実行できます。プロジェクト一覧からプロジェクトを除外する機能のため、これまで同様編集を行うことが可能です。

(1)　プロジェクトの設定画面の下部にあるアーカイブボタンを押します。



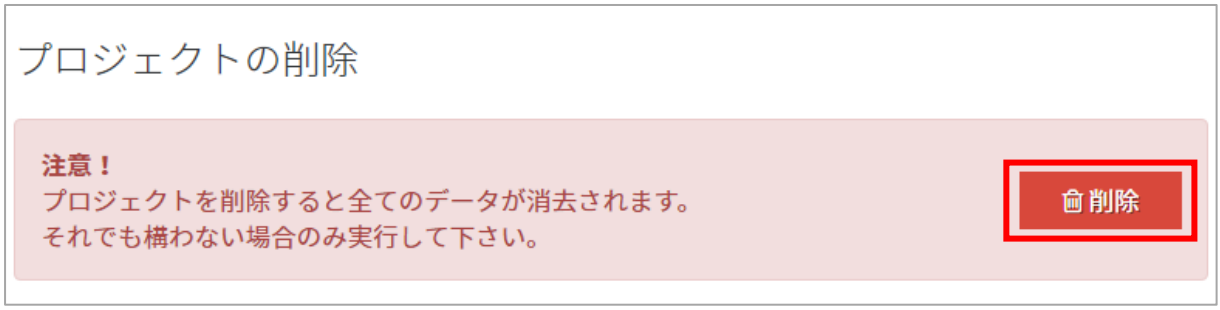
(2)　確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。

(3)　アーカイブしたプロジェクトはプロジェクト一覧のアーカイブタブに表示されます。

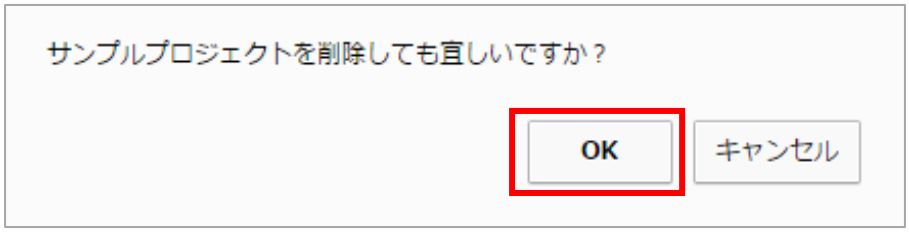
3.3.4.　プロジェクト設定を削除する

プロジェクトの削除はプロジェクト設定画面から行うことができます。

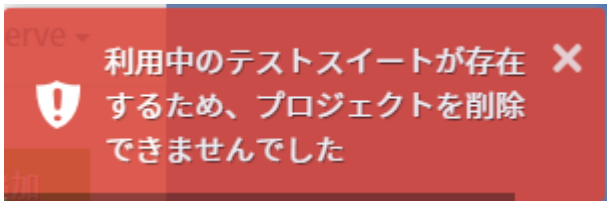
(1)　プロジェクト設定画面の最下部にある削除ボタンを押します。



(2)　確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。



※テストフェーズに紐付いているテストスイートが存在する場合、プロジェクトの削除を行うことができません。


利用中のテストスイートが存在するため、プロジェクトを削除できませんでした

第4章　進捗管理

本章ではプロジェクトの進捗管理について説明します。

4.1. ダッシュボード

ダッシュボードでは各テストフェーズ、テストサイクルの進捗状況をひと目で確認することができます。

4.1.1.　成分バーと期限バー

テストケース消化率と、テスト結果の割合、期日に対し遅れているのか、進んでいるのか？が、ひと目でわかります。テストフェーズ単位、テストサイクル単位での確認ができます。

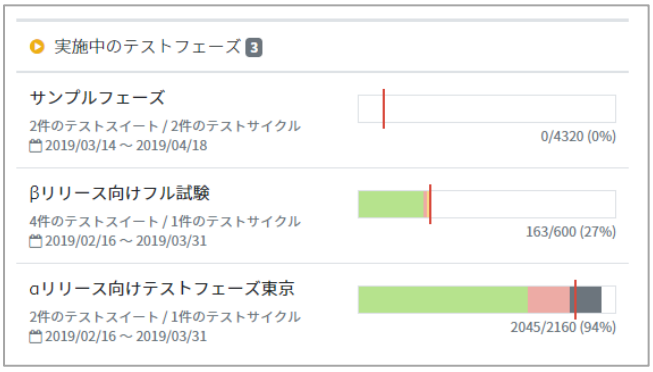
(1)　成分バーにカーソルを合わせると、テスト結果と件数を確認できます。

(2)　期限バーにカーソルを合わせると、当日の予定件数を確認できます。

※期限バーの予定件数に関しては予実設定画面(手順 7.2.参照)の進捗予測から反映されます。予実設定に変更がない場合はテスト件数と実施日数から自動で計算された数字が表示されます。

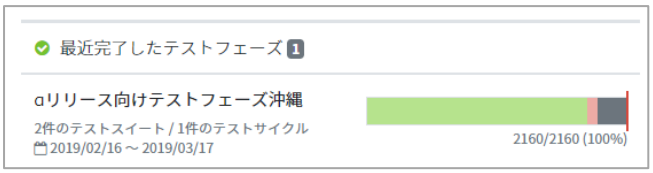
4.1.2.　実施中のテストフェーズ

現在実施期間中のフェーズがダッシュボード画面に一覧表示されます。



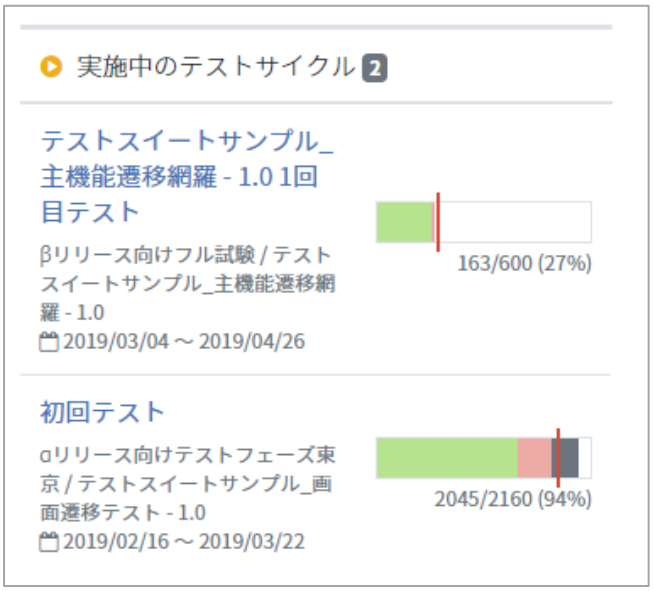
4.1.3.　最近完了したテストフェーズ

設定した終了日を過ぎたテストフェーズが最近完了したテストフェーズに表示されます。



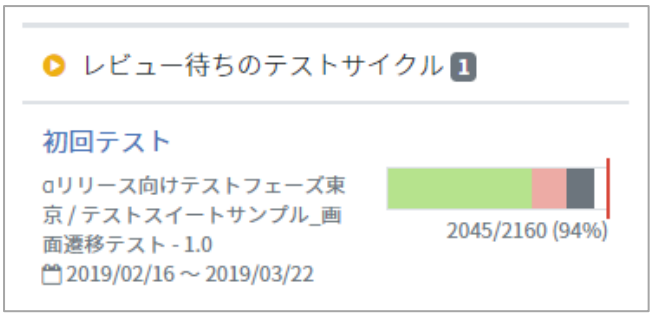
4.1.4.　実施中のテストサイクル

テスト実行が開始されているテストサイクルがダッシュボード画面に一覧で表示されます。



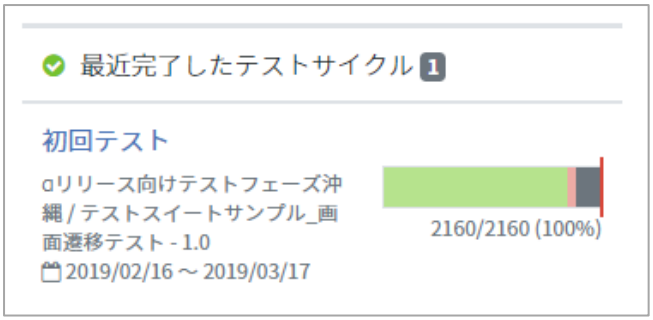
4.1.5.　レビュー待ちのテストサイクル

テスト実行画面でチェック依頼ボタンを押すと、そのテストサイクルがチェック待ちのテストサイクル一覧に表示されます。



4.1.6.　最近完了したテストサイクル

チェック依頼中のテストサイクルを確認し、完了ボタンを押すと最近完了したテストサイクルに表示されます。


最近完了したテストサイクル 1
初回テスト
aリリース向けテストフェーズ沖縄 / テストスイートサンプル_画面遷移テスト - 1.0
2019/02/16 ～ 2019/03/17
2160/2160 (100%)

第5章　テストケースの管理

本章では、実際にテストに使用するテストケースの登録方法や、管理方法について説明します。

5.1. テストスイートを作成する

テストケースを管理するためのテストスイートの作成方法について説明します。テストスイートの追加方法はテストスイート追加・エクセルインポートの 2 種類あります。設定は後から変更可能です。

5.1.1.　テストスイートの基本設定

(1)　ダッシュボード画面左のメニューからテストスイートのリンクをクリックします。

(2)　テストスイート一覧画面右上のテストスイート追加ボタンを押します。

(3)　テストスイートの基本情報を入力します。

5.1.2.　テスト定義の項目を設定する

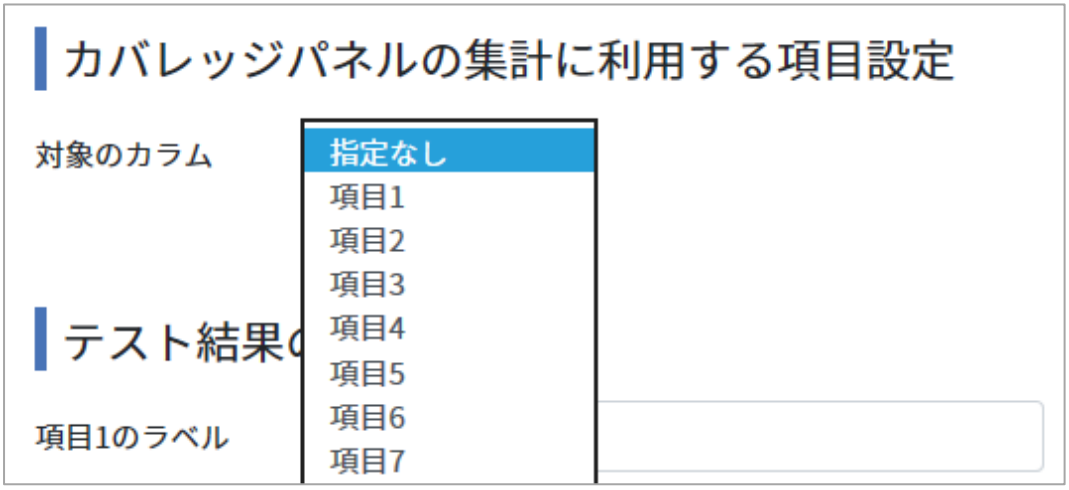
テスト項目のラベルを自由に設定できます。初期表示ではプロジェクト作成時に設定したラベルが表示されています。

(1)　ラベルの項目名を入力します。変更の必要がない場合は次の手順へ進みます。

(2)　使用する項目にチェックを入れます。

5.1.3.　カバレッジパネルの集計に利用する項目設定

どんな機能・観点に向けたテストケースがどれぐらい存在し、そのテストがどれぐらい実行されているかを確認できるカバレッジパネルを表示します。どの項目を使って集計するかを決めることができます。ここで対象のカラムを選択している場合、このテストスイートが使われているフェーズのレポート画面でカバレッジパネルを見ることができます。



5.1.4.　テスト結果の自由項目を設定する

テスト結果部に対し自由に入力できる項目が必要な場合、項目の追加とラベル設定ができます。ここで設定した項目はテスト実行画面で表示され、テスト結果に対する備考やバグ ID などを自由に入力できるようになります。初期表示では”環境”、“バグ ID”、”備考”が設定されています。

(1)　ラベルの項目名を入力します。変更の必要がない場合は次の手順へ進みます。

(2)　使用する項目にチェックを入れます。

5.1.5.　初期バージョンを設定する

テストスイートの新規作成時にバージョン情報を付加します。作成したテストスイートはコピーしてバージョン管理を行うことができます。

(1)　バージョン名には任意のバージョン名を入力することができます。備考欄は HTML での入力が可能です。備考欄に入力した内容はテストサイクル画面でも確認することができます。

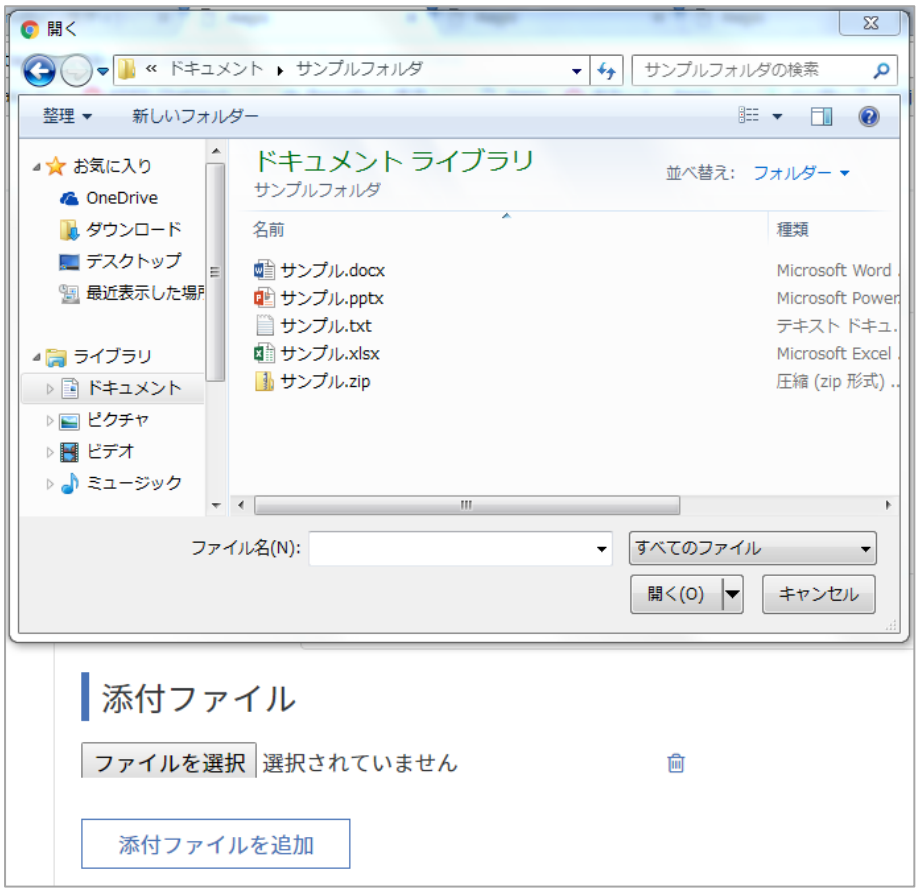
5.1.6.　ファイルを添付する

テストスイートに対しファイルを添付することができます。添付したファイルはテストケース編

集画面またはテスト実行画面の関連ファイル(手順 8.6 参照)からダウンロードすることができます。

(1)　テストスイートの新規追加画面から添付ファイルの追加ボタンを押します。

(2)　ファイル選択のダイアログボックスが表示されたら、添付したいファイルを選択し開くボタンを押します。



(3)　入力を終えたら登録するボタンを押します。

5.2. テストケース取込

テストケースはエクセルファイルからインポートすることも可能です。上書きやケースをまとめて追加する際などはテストケース編集画面のテストケース取込を使用します。

5.2.1. テストケース取込

テストケース取込を使用する場合、識別 ID に既に存在する ID を指定するとその識別 ID のテストケースに対する上書きが行われ、存在しない識別 ID を指定するとテストケースが追加されます。

(1) テストケース取込画面で表示されているフォーマットに合わせたエクセルシートを整形します。項目を変更したい場合はテストスイートの設定から変更を行います。(手順 5.4.参照)

手順 1:テストケースが記述されている部分のみを残して、左上を A-1 セルに合わせます。

	A	B	C	D	E	F	G
1	設計ID-実装ID	機能分類1	機能分類2	属性	テスト条件1	テスト条件2	事前条件
	001-02-01-01	テストチーム・テスト実務のための機能	Excelテストケースのインポート	表	主要Excelフォーマット	xls	Aegisにログインし、テ（https://aegis-stagi apps.com/projects/1 移する
2	001-02-01-02			表	主要Excelフォーマット	xlsx	Aegisにログインし、テ（https://aegis-stagi apps.com/projects/1 移する

手順 2：A 列に左から “識別 ID”、“優先度” 列を挿入します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
	識別ID	優先度	設計ID-実装ID	機能分類1	機能分類2	属性	テスト条件1	テスト条件2
	1	A	001-02-01-01	テストチーム・テスト実務のための機能	Excelテストケースのインポート	表	主要Excelフォーマット	xls
	2	A	001-02-01-02			表	主要Excelフォーマット	xlsx

以下のようなシートをインポートする場合は

識別ID	優先度	設計ID-実装ID	機能分類1	機能分類2	属性	テスト条件1	テスト
1	A	001-02-01-01	テストチーム・テスト実務のための機能	Excelテストケースのインポート	表	主要Excelフォーマット	xls
2	A	001-02-01-02			表	主要Excelフォーマット	xlsx

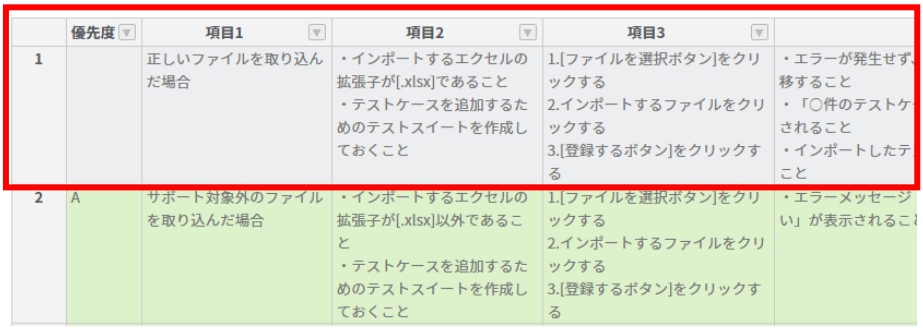
下図のようにラベルを設定します。

識別 ID と優先度列をさきほど追加しましたが、この 2 列は自動でラベル付けされますので、ここで設定していくのは、優先度 の右隣、3 列目からになります。

※識別 ID はテストケース取込時に必須の項目です。テストケースを更新したり追加したり

する場合に、識別 ID を頼りに行います。

※優先度は特に定義がない場合はすべて A で構いません。優先度を設定しなかった場合、テスト実行画面ではグレーアウトされた行になり、テストケース数としてもカウントされません。テストケースではないが、補足的に利用したい行として活用できます。

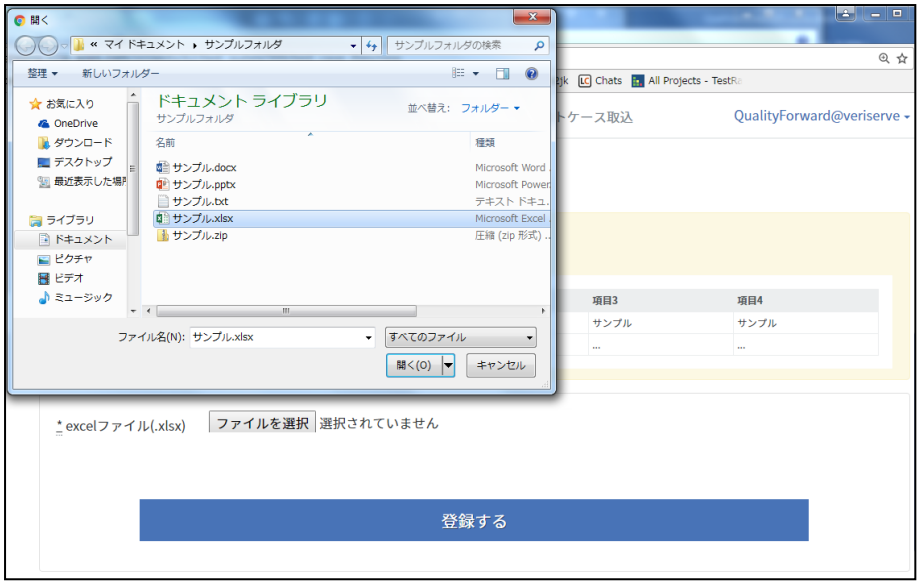


	優先度	項目1	項目2	項目3	
1		正しいファイルを取り込んだ場合	・インポートするエクセルの拡張子が[.xlsx]であること ・テストケースを追加するためのテストスイートを作成しておくこと	1.[ファイルを選択ボタン]をクリックする 2.インポートするファイルをクリックする 3.[登録するボタン]をクリックする	・エラーが発生せず 移すること ・「○件のテストケ されること ・インポートしたテ こと
2	A	サポート対象外のファイルを取り込んだ場合	・インポートするエクセルの拡張子が[.xlsx]以外であること ・テストケースを追加するためのテストスイートを作成しておくこと	1.[ファイルを選択ボタン]をクリックする 2.インポートするファイルをクリックする 3.[登録するボタン]をクリックする	・エラーメッセージ い」が表示されるこ

(2)　ファイルの用意ができたらテストケース一覧画面右上にあるテストケース取込ボタンを押します。

(3)　ファイルの準備が整ったらファイルを選択ボタンを押してください。

(4)　ファイル選択のダイアログボックスが表示されたら、インポートしたいファイルを選択し開くボタンを押します。



(5)　ファイルを選択したら登録ボタンを押します。

5.3. エクセルスマートインポート

エクセルスマートインポートでは「5.1.テストスイートを作成する」の手順を踏まずに、エクセルで作成したテストケースを取り込むことでテストスイートを作成することができます。

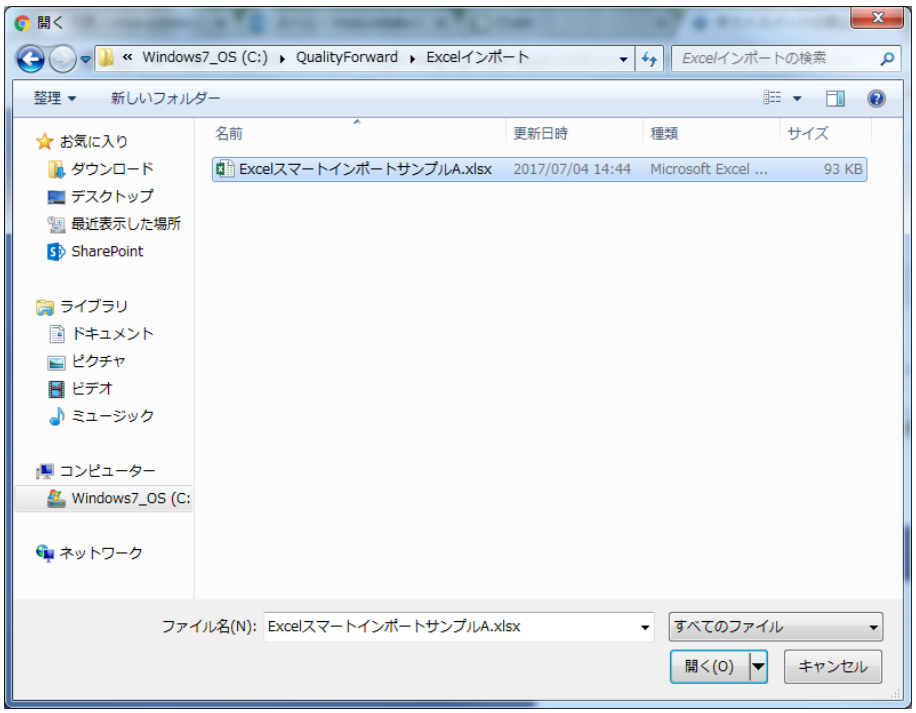
5.3.1.　エクセルスマートインポート

エクセルファイルで作成したテストケースをインポートすることができます。

(1)　テストスイート一覧画面右上の excel インポートボタンを押します。

(2)　テストスイート名を入力し、ファイルを選択ボタンを押します。

(3)　ファイル選択のダイアログボックスが表示されたら、インポートしたいファイルを選択し開くボタンを押します。



(4)　ファイルを選択したら次へボタンを押します。

(5)　インポートするシートを選択し、次へボタンを押します。

(6)　一番左のラジオボタンで項目行を選択します。選択した行が項目名としてテストスイートに登録されます。

(7)　上部のチェックボックスで取り込む列を選択します。取り込み時にチェックボックスがオンになっているので不要な列のチェックを外します。標準で最大 25 列まで選択することができます。(申込時オプションにより異なります)取り込まれる列は緑色で表示されます。列の選択が完了したら次へボタンを押します。

(8)　確認画面に遷移するので、優先度の設定がある場合は優先度を入力してあるカラムを選択します。指定なしの場合は全てのテストケースに「A」が付与されます。

※優先度は「A・B・C」のいずれかを指定できます。それ以外の文字は全て空欄で登録されます。

(9)　間違いがなければ取り込むボタンを押します。選択し直す場合は戻るボタンを押します。

	優先度	要求トレーサビリティID	対象機能：メインアイテム	対象機能：サブアイテム	テスト目的	テスト条件	事前条件	テスト
1	A	16	テストケース一覧	テストケース追加	エクセルのインポート機能が正しく動作することを確認する	正しいファイルを取り込んだ場合	・インポートするエクセルの拡張子が[.xlsx]であること ・テストケースを追加するためのテストスイートを作成しておくこと	1.[ファをクリートすックすン]をク
2	A	16				サポート対象外のファイルを取り込んだ場合	・インポートするエクセルの拡張子が[.xlsx]以外であること ・テストケースを追加するためのテストスイートを作成しておくこと	1.[ファをクリートすックすン]をク
3	A	16				設定と取り込みファイルの項目数に差異がある場合	・項目数が1つのテストスイートを作成しておくこと ・項目数が2つ以上のテストケースであること	1.[ファをクリートすックすン]をク
4	A	16				設定と取り込みファイルの項目数に差異がある場合	・項目数が2つのテストスイートを作成しておくこと ・項目数が1つのテストケースであること	1.[ファをクリートすックすン]をク

5.4. テストケース作成

テストスイートの作成を終えたら、テストケースの追加を行います。ケースの追加方法は 2 種類(オンライン編集・エクセルインポート)あります。

5.4.1. オンライン編集

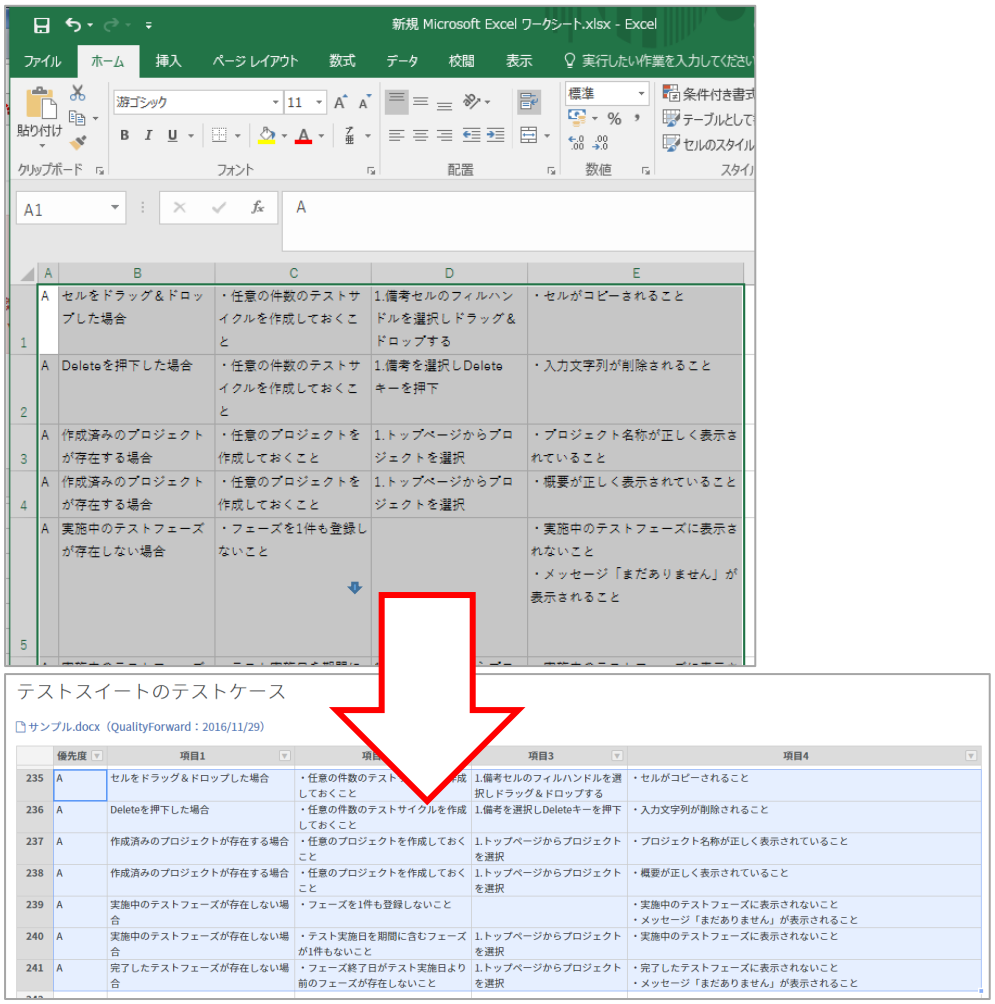
WEB 画面上でテストケースの追加を行います。

(1) 作成したテストスイートを開きます。

(2)　各項目に直接入力を行えます。入力内容は自動で保存されます。

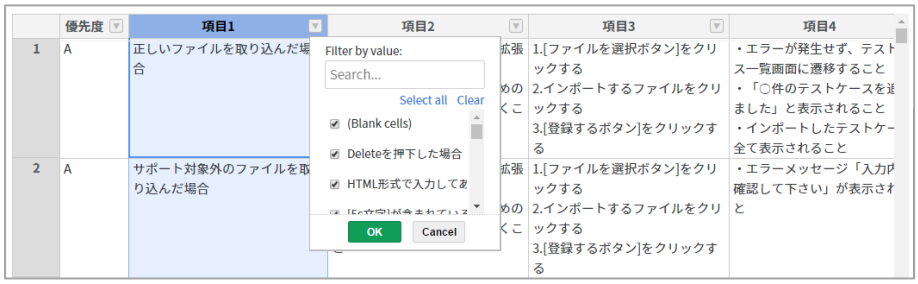
(3)　Excel のオートフィルのように簡単にコピーができます。

(4)　Exccel からコピーしてそのまま貼り付けることも可能です。

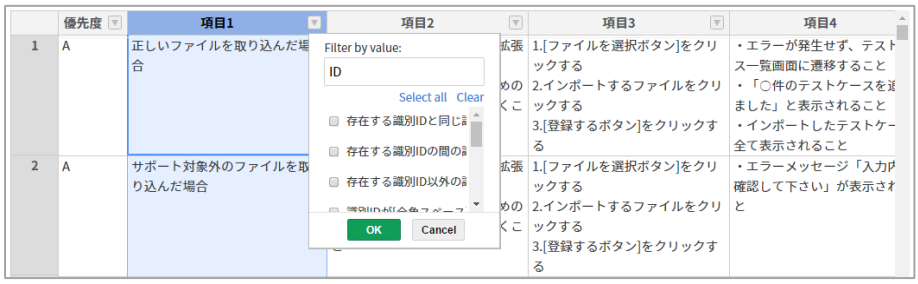


(5)　列の幅も自由に変更可能です。

(6)　テストケースにフィルタをかけ、まとめて編集も可能です。



(7)　テキストでフィルタをかける場合は、一度 Clear をクリックしてからテキスト入力を行い、表示されたフィルタにチェックを入れます。



(8)　また、Ctrl+F でテストケースのキーワード検索を行うことができます。検索したいキーワードを入力し、Enter を押すと検索にヒットしたセルがフォーカスされます。

5.5. テストスイート設定を変更・削除する

テストスイートの情報を変更・削除する方法を説明します。テストスイートの情報は設定画面からいつでも変更可能です。

5.5.1. テストスイート設定を変更する

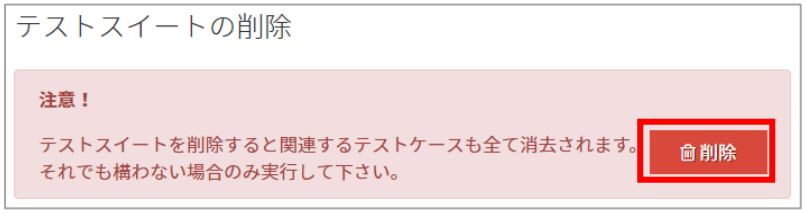
(1) テストスイート一覧画面から変更したいテストスイート名横の設定リンクをクリックします。

(2) 変更したい項目の入力を終えたら、更新するボタンを押してください。

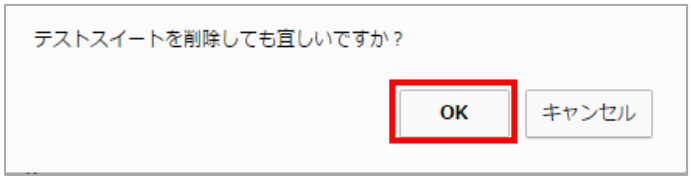
5.5.2. テストスイートを削除する

テストスイートの削除はテストスイート設定画面から行うことができます。テストスイートを削除するとそのテストスイートが持つバージョン情報も全て削除されます。

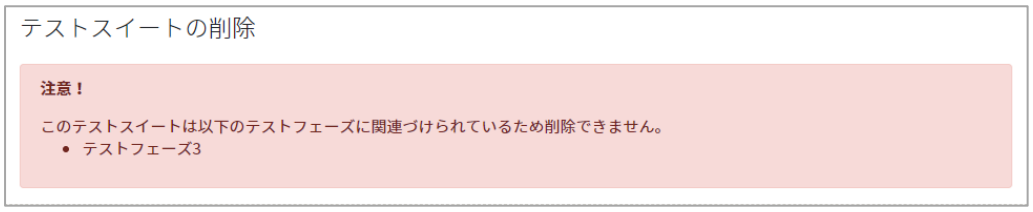
(1) テストスイート設定画面の最下部にある削除ボタンを押します。



(2)　確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。



※いずれかのバージョンがテストフェーズに紐付けられている場合は、テストスイートを削除することができません。紐付けを解除してから削除する必要があります。



5.6. テストスイートにヘッダを追加する

テストスイートのヘッダ行を追加しカスタマイズすることができます。※7 行までを推奨しています

(1)　テストスイート一覧から追加ヘッダ設定をクリックします。

(2)　追加ヘッダは JSON 形式で入力することができます。

(3)　入力を行うと実際に表示される形式でプレビューができます。

※入力方法が不明な場合は画面右上のヘルプをご参照ください。

(4)　追加したヘッダはテストサイクルにも反映されます。

	sample1_1	sample1_2	sample1_3	sample1_4			
	sample2_1	sample_2_2			sample2_5		
	優先度	機能カテゴリ	テスト観点	事前条件	テスト手順	期待動作	テスト実施者
1	A	主機能遷移	全組み合わせ	機能Aが実行できる状態にする	機能A → 機能B → 機能C → 機能D → 機能Eの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Eが実行可能であること	
2	A	主機能遷移	全組み合わせ	機能Aが実行できる状態にする	機能A → 機能B → 機能C → 機能E → 機能Dの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Dが実行可能であること	
3	A	主機能遷移	全組み合わせ	機能Aが実行できる状態にする	機能A → 機能B → 機能D → 機能C → 機能Eの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Eが実行可能であること	
4	A	主機能遷移	全組み合わせ	機能Aが実行できる状態にする	機能A → 機能B → 機能D → 機能E → 機能Cの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Cが実行可能であること	
5	A	主機能遷移	全組み合わせ	機能Aが実行できる状態にする	機能A → 機能B → 機能E → 機能C → 機能Dの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Dが実行可能であること	
6	A	主機能遷移	全組み合わせ	機能Aが実行できる状態にする	機能A → 機能B → 機能E → 機能D → 機能Cの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Cが実行可能であること	

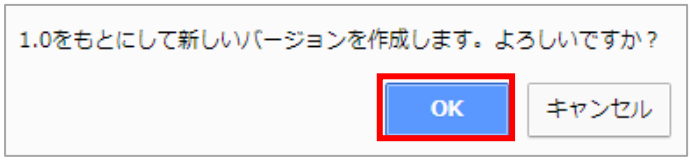
5.7. 新しいバージョンのテストスイートを作成する

テストスイートは複製してバージョン管理することができます。既にあるテストスイートを元に変更を行いたい場合や、前回のテストから一部のテストケースを抜粋してテストしたい時などに使用できます。

5.7.1.　新しいバージョンの基本設定

(1)　テストスイート一覧から元にしたいテストスイートバージョンのコピーボタンを押します。

(2)　確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。



(3)　コピーしたテストスイートのバージョン設定画面に遷移したら、任意のバージョン名を入力します。

5.7.2.　テストスイートバージョンにタグ付けをする

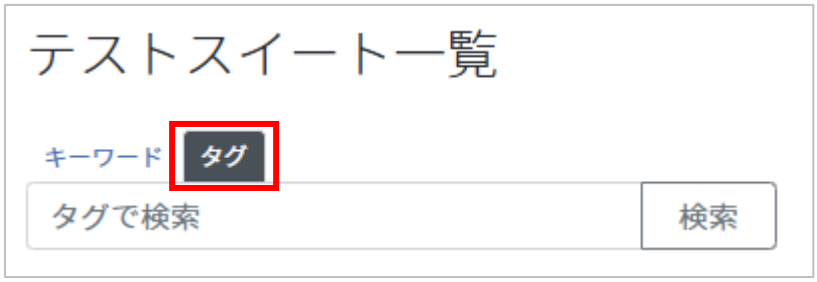
テストスイートへタグを設定することで、大量にあるテストスイートも管理しやすくなります。

(1)　タグはカンマ区切りで複数設定することができます。

(2)　入力が終わったら更新ボタンを押します。

(3)　テストスイート一覧に入力したタグが表示されるようになります。

(4)　キーワード検索横のタグのタブをクリックすることで、タブ名で検索し絞り込むことができます。※タグを検索する場合は完全一致である必要があります。



(5)　また、テストスイート一覧の右上にあるタグリストから絞り込むことも可能です。

(6)　タグリストから絞り込みたいタグ名をクリックします。

(7)　選択したタグで絞り込まれます。

5.7.3.　テストスイートバージョンのステータスを設定する

テストスイートの各バージョンはステータスを設定することにより、テスト実施対象とすることができます。

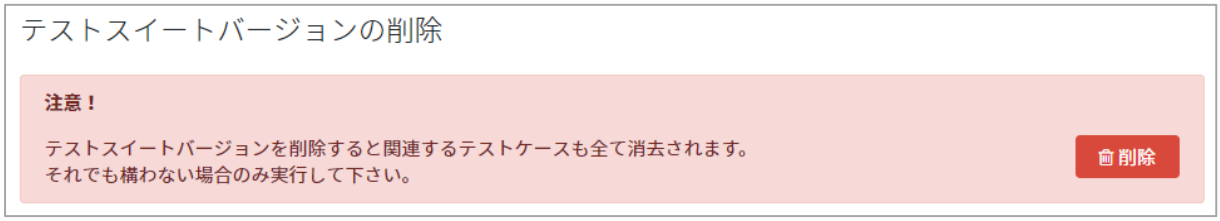
(1)　ステータスを利用可に設定することでテストフェーズに紐付けることが可能となります。編集中または利用不可の場合はテストフェーズ紐付け画面に表示されません。

(2)　入力が終わったら更新ボタンを押します。

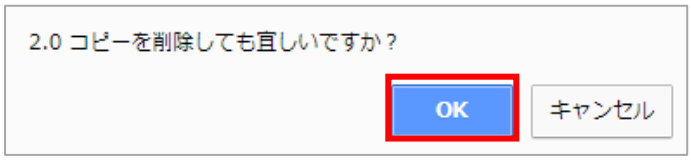
5.8. テストスイートバージョン設定を変更・削除する

テストスイートのバージョンはバージョン毎に設定画面から削除することができます。

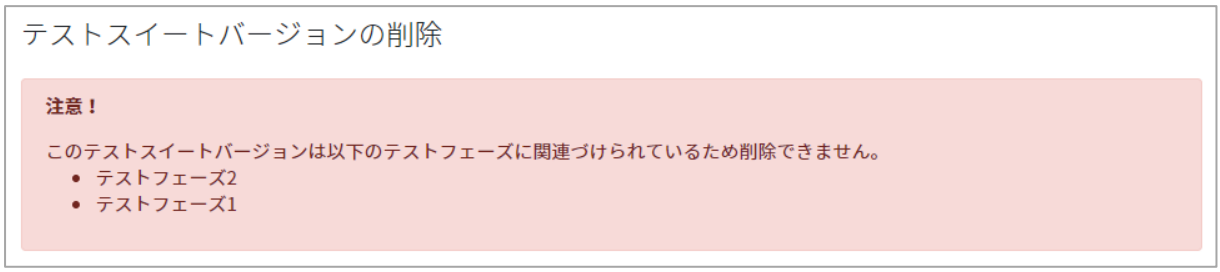
(1)　バージョン設定画面の最下部にある削除ボタンを押します。



(2)　確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。



※テストフェーズに紐付けられている場合は、テストスイートバージョンを削除することができません。紐付けを解除してから削除する必要があります。



5.9. テストスイートをロックする

作成したテストスイートはロックをかけることができます。ロックのかかったテストスイートは編集ができず、閲覧のみが可能となります。テナント管理者またはプロジェクト管理者がロック・ロック解除をすることができます。

(1)　ロックしたいテストスイートのバージョンの設定画面を開きます。

(2)　設定画面のロック設定の「ロックする」にチェックを入れます。

(3)　一言メモは任意でご入力いただけます。

(4)　入力が終わったら更新するボタンを押します。

(5)　テストスイート一覧のバージョン名横に鍵マークが表示され、対象のテストスイートは閲覧のみが可能となります。

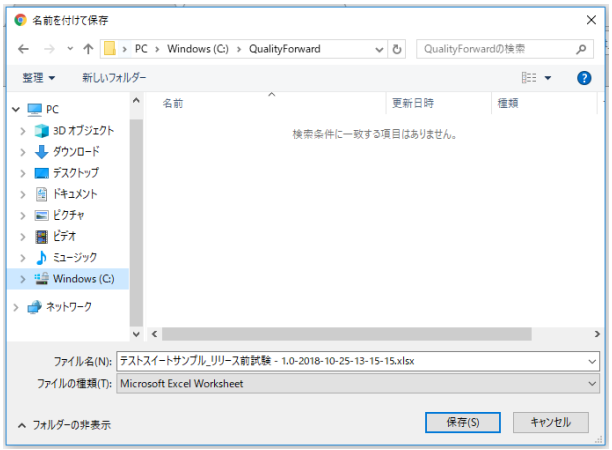
5.10.　テストスイートをダウンロードする

オンラインで作成したテストケースは Excel 形式でダウンロードして保存しておくことが可能です。

(1)　テストスイート一覧画面を開き、ダウンロードしたいテストスイートのバージョン下部にあ

る xlsx をクリックします。

(2)　ダイアログボックスが開いたら保存先を選択し、ファイル名を入力し保存ボタンを押します。

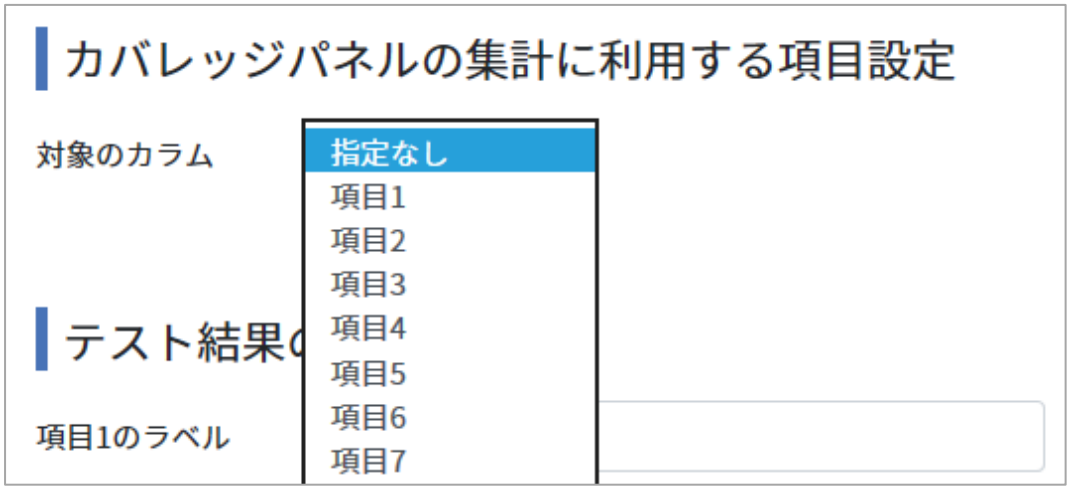


5.11.　カバレッジパネルを利用する

作成したテストスイートに対し、どんな機能・観点に向けたテストケースがどれぐらい存在するかを確認できます。このカバレッジパネルはテストの進捗には影響されません。

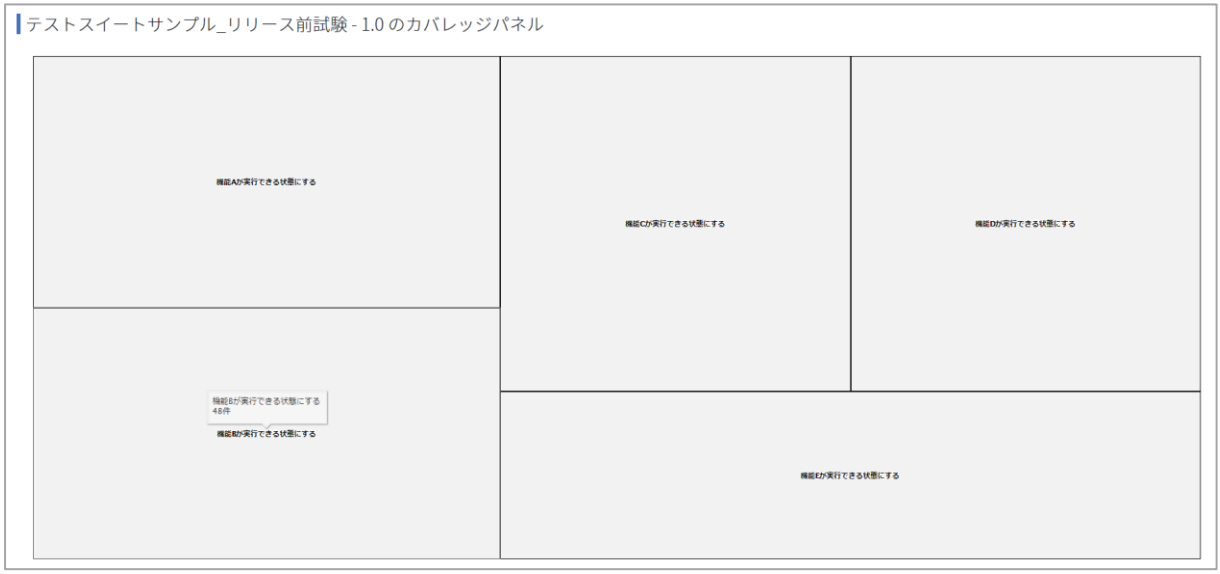
(1)　テストスイート一覧で確認したいテストスイートの設定画面を開きます。

(2)　カバレッジパネルの集計に利用する項目を選択します。



(3)　テストスイート一覧右側にあるカバレッジパネルボタンを押します。

(4)　カバレッジパネルが表示されます。ここで集計されている件数はテスト対象(優先度の入力がある)となるテストケース数です。



第6章　テストフェーズの管理

本章では、テストを進めていく際のフェーズの管理について説明します。

6.1. テストフェーズを作成する

テストサイクルを管理するためのテストフェーズの作成方法について説明します。設定は後から変更可能です。

6.1.1.　テストフェーズの基本設定

(1)　ダッシュボード画面左のメニューからテストフェーズのリンクをクリックします。

(2)　テストフェーズ一覧画面右上のテストスイート追加ボタンを押します。

(3)　テストフェーズの基本情報を入力します。

(4)　紐付けられているテストスイートのテストサイクルを自動生成するチェックボックスをオンにしてテストフェーズを作成すると、紐付けたテストスイートそれぞれのテストサイクルが 1 件ずつ自動で作成されます。

6.1.2.　対象のテストスイートバージョンを設定する

テストフェーズに紐付けるテストスイートバージョンを選択します。ステータスが利用可となっているテストスイートバージョンが表示されます。

6.2. BTS 連携を行う

ご使用の BTS を選択し、レポート機能と連携設定することができます。

社内ネットワークを使用されている場合、外部のシステムである QualityForward からのアクセスを弾かれてしまう場合がございます。その場合は以下の IP アドレスからのアクセスを許可していただく必要がございます。

QualityForward IP アドレス
13.112.115.12
13.113.53.12
52.197.246.217
52.197.44.200

6.2.1. Redmine と連携する

連携する BTS で「Redmine」を選択すると Redmine に連携するための設定項目が表示されます。

6.2.2. Redmine のベース URL を設定する

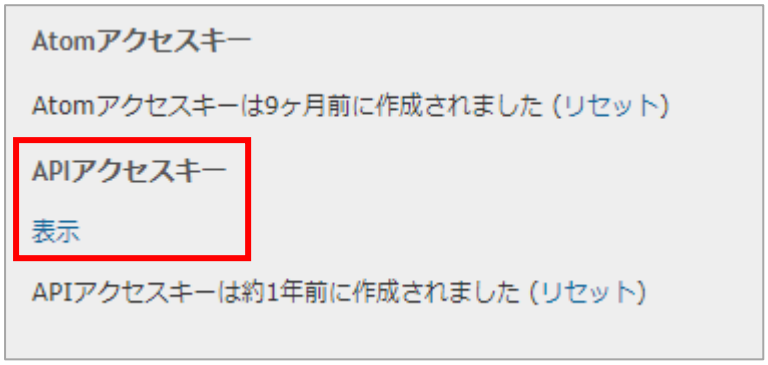
Redmine のベース URL の入力を行います。ベース URL はバグの優先度設定の取得、および「最近のインシデント一覧」のチケットのリンク生成のため利用します。

ベース URL は、Redmine のルートにあたる URL を指し、［https://xxxxxx.xxxx/］の場合と［https:// xxxxxx.xxxx/redmine/］である場合の 2 パターンあります。URL の後には「?key=API キー」を指定します。

API キーは Redmine の個人設定から取得することができます。手順は以下の通りです。

(1) Redmine にログインし、個人設定を開きます。

(2) API アクセスキーの表示をクリックすると API キーが表示されます。



6.2.3. バグ一覧取得用の URL を設定する

バグ取得用の URL の入力を行います。バグ曲線、優先度別グラフ、ステータス別グラフを描画するため、指定された範囲におけるバグの OPEN/CLOSE 数の取得に利用します。

(1) Redmine の個人設定から API キーを取得します。

(2) Redmine の対象のプロジェクト開き、URL を取得します。

例）https://xxx.xxxx/projects/xxxx/

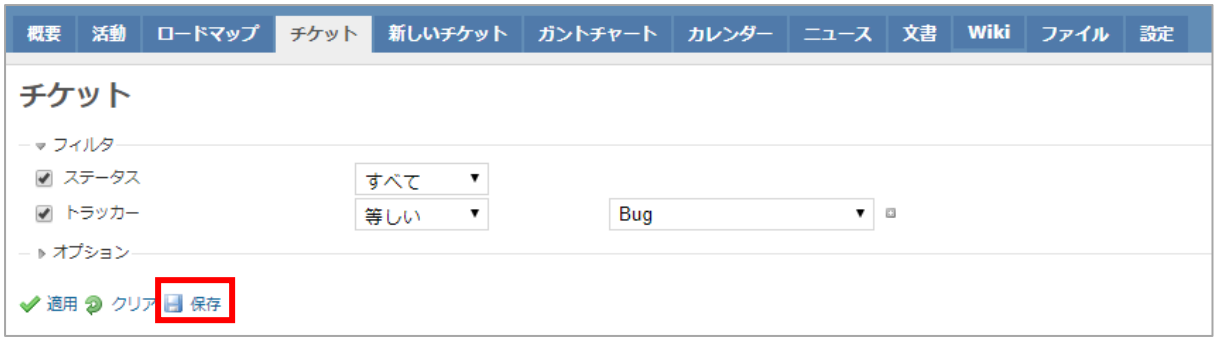
(3) 手順(2)で取得した URL に「issues.json?key=API キー」を追加します。

例）https://xxx.xxxx/projects/xxxx/issues.json?key=xxxx

(4) Redmine で対象チケットの絞込みを行います。バグ一覧を取得するために「すべて」の「バグ」を対象にし、適用ボタンを押します。

※ここでは「すべて」の「バグ」を対象にしていますが、フィルタ条件はプロジェクト方針に合わせて自由に設定していただけます。

(5) すべてのバグの一覧が表示されたら保存ボタンを押します。



(6)　新しいクエリに名前を付けて保存します。

(7)　チケット一覧右側のカスタムクエリ一覧に手順(6)で作成したクエリが表示されます。作成したクエリ名をクリックします。

(8)　URL の最後にクエリ ID が表示されるので、「query_id=xx」をコピーします。

/issues?query_id=25

(9)　手順(3)までで作成した URL の最後に手順(8)の「&query_id=xx」を入力します。

例)https://xxx.xxxx/projects/xxxx/issues.json?key=xxxx&query_id=xx

(10)　手順(9)でできた URL をブラウザのアドレス欄に直接入力します。json の取得が確認できたら URL を登録欄に入力し、登録ボタンを押します。

6.2.4.　最近のインシデント取得用 URL を設定する

最近のインシデント取得用 URL「最近のインシデント一覧」画面を生成するため、指定された範囲のバグのタイトル、優先度、ステータスを取得します。

※URL の取得は手順 6.1.4.と同様に行います。

※バグ一覧取得用 URL と最近のインシデント取得用 URL が個別に設定可能なのは、プロジェクトによって取得したい先のフィルタが異なる場合にも対応するためです。

集計したいバグの範囲が同一の場合には、同一の指定で問題ありません。

6.2.5.　JIRA と連携する

連携する BTS で「JIRA」を選択すると JIRA に連携するための設定項目が表示されます。

6.2.6.　JIRA のユーザ名とパスワードを入力する

情報を取得するために、JIRA に登録済みのユーザ名とパスワードを入力します。

6.2.7.　JIRA の URL・コンテキストパスを設定する

取得したい課題の登録されたプロジェクトを含む JIRA の URL を設定します。コンテキストパスは JIRA 側で設定を行っている場合にのみ入力してください。

※コンテキストパスは「/xxx」の形式で入力してください。

(1)　JIRA の管理メニューからシステムを選択します。

(2)　一般設定を開きます。

(3)　一般設定内にあるベース URL をコピーし、JIRA の URL に入力します。

6.2.8.　JQL を設定する

取得するプロジェクトや課題のタイプなどを絞り込むために JQL を設定する必要があります。未設定の場合は JIRA に登録されている全てのプロジェクト、課題が対象となります。

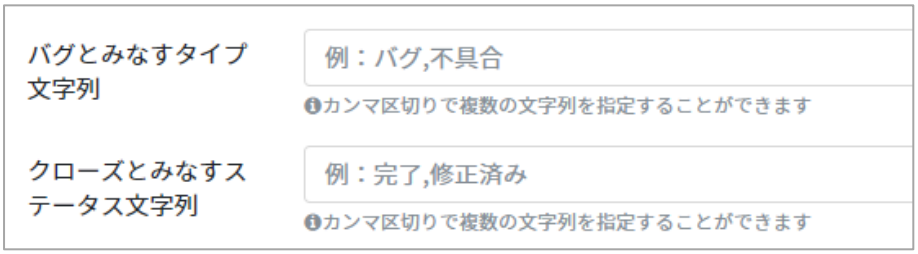
例）特定のプロジェクトを対象とする場合は project=”xxxxx”

例）特定の課題タイプを対象とする場合は issueType = "xxx"

6.2.9. バグやクローズの文字列を設定する

バグの OPEN・CLOSE を集計する際に、どの課題タイプをバグとみなすか、どのステータスで完了とするかを設定することができます。

バグとみなすタイプ文字列に指定した課題タイプがレポート画面に表示される対象の課題となります。



(1) JIRA の管理メニューから課題を選択します。

(2) 課題タイプを開きます。バグとみなすタイプ文字列はこの課題タイプの名前を指定します。

(3)　課題タイプメニューからステータスを開きます。クローズとみなすステータス文字列はこのステータスの名前を指定します。

※課題が一部しか表示されない場合は jira.search.views.default.max の値を確認してください

※JIRA との接続に失敗する場合は以下の項目を確認してください

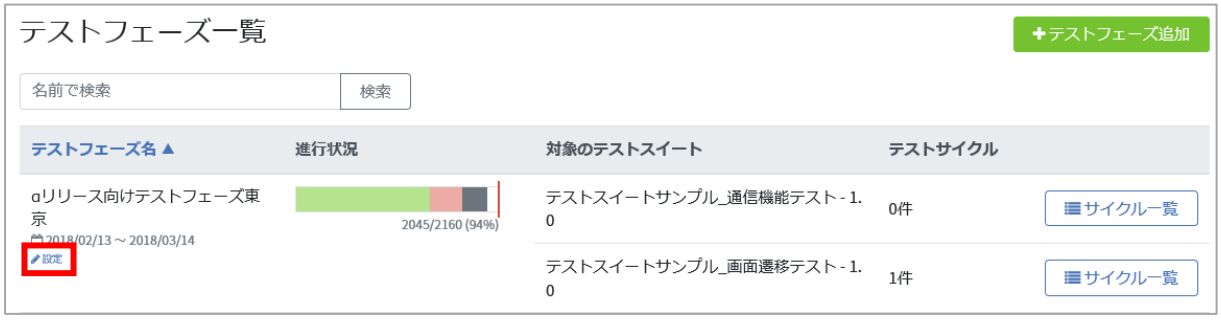
1. ログインに失敗する場合は JIRA で直接ログインをした後に連携設定を試みてください
   (JIRA のログインを複数回失敗すると CAPTCHA 認証が必要となります)
2. プロジェクト設定権限があることを確認してください
3. JIRA の認証設定が BASIC 認証となっていることを確認してください

6.3. テストフェーズ設定を変更・削除する

テストフェーズの情報を変更・削除する方法を説明します。テストフェーズの情報は設定画面からいつでも変更可能です。

6.3.1. テストフェーズ設定を変更する

(1) テストフェーズ一覧画面から変更したいテストフェーズ名横の設定リンクをクリックします。

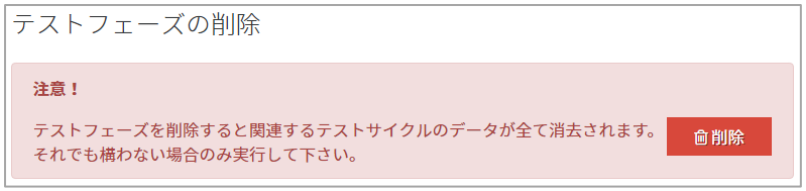


(2) 変更したい項目の入力を終えたら、更新するボタンを押してください。

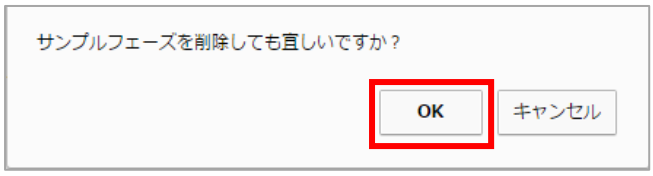
6.3.2. テストフェーズを削除する

テストフェーズの削除はテストフェーズ設定画面から行います。

(1) テストフェーズ設定画面の最下部にある削除ボタンを押します。



(2)　確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。



第7章　テストサイクルの管理

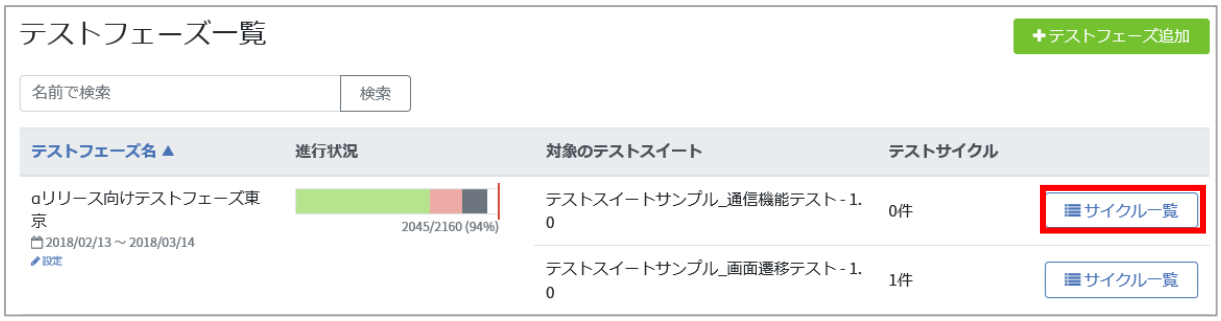
本章では、テストフェーズに紐付けたテストスイートに対して実際にテスト結果を記入していく＝テストを実行していくための、実行単位のテストサイクルについて説明します。1 つ以上のテスト実行単位(テストサイクル)を包含する「テストフェーズ」を定義し、テストフェーズに紐付けたテストスイートごとに、テストサイクルを作成することで、テスト実行が可能になります。

7.1. テストサイクルを作成する

本項ではテストを実行するためのテストサイクルを作成する方法について説明します。設定は後から変更可能です。

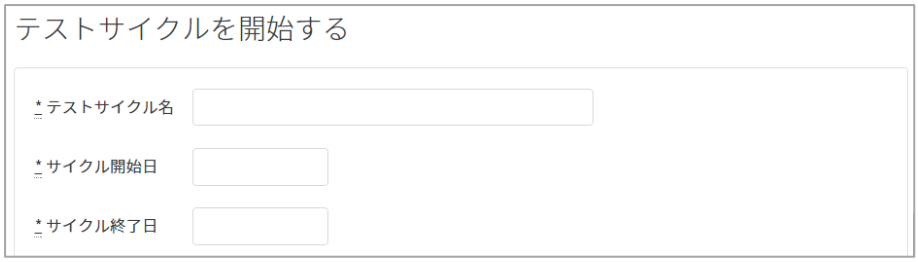
※テストフェーズ新規作成時に自動生成チェックをオンにした場合、1 件目のテストサイクルは自動で生成されます。

(1)　テストフェーズ一覧画面から、テストサイクルを追加したいテストフェーズのサイクル一覧ボタンを押します。



(2)　テストサイクル一覧画面右上のテストサイクル追加ボタンを押します。

(3)　テストサイクルの基本情報を設定します。



(4)　テストケースに設定されている優先度のうち、どの優先度を対象とするかを選択します。

(5)　全ての入力を終えたら登録ボタンを押します。

7.2. 予実設定を管理する

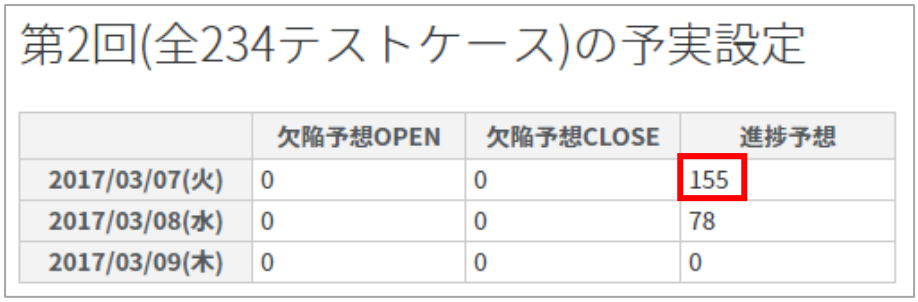
テストの実施予測の設定をテストサイクル毎に行えます。設定したデータはレポート画面で収束曲線として表示されます。

7.2.1.　予実設定を入力する

ここで入力した進捗予想数は期限バーの件数へ反映されます。

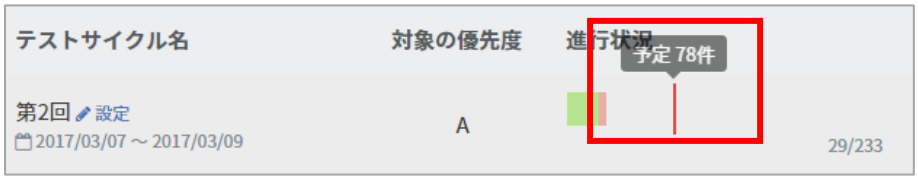
(1)　テストサイクル一覧画面から、予実設定ボタンを押します。

(2)　欠陥予想 OPEN 数と欠陥予想 CLOSE 数、進捗予想数を入力します。



※入力内容はセルからカーソルが外れた時点で自動的に保存されます。

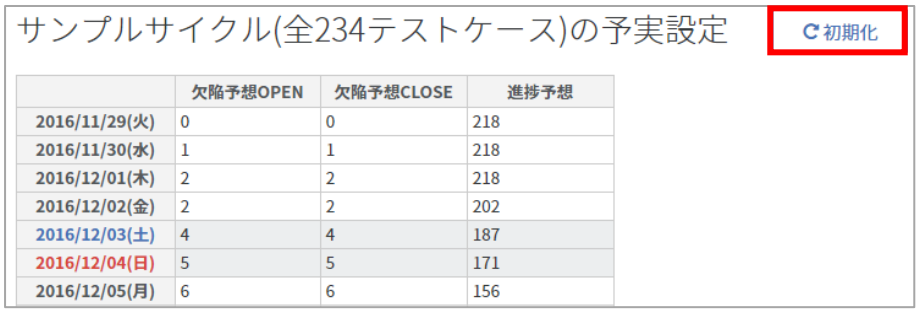
(3)　進捗予想の入力により、期限バーの予定件数が変動します。



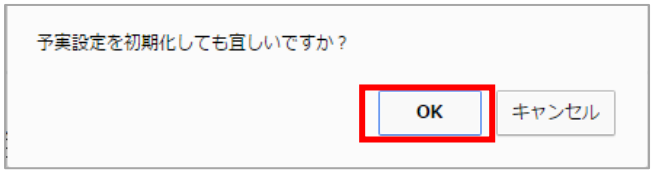
7.2.2.　予実設定を初期化する

入力した予実設定を元の状態に戻したい場合は、初期化ボタンで元に戻すことができます。

(1)　予実入力欄の右上にある初期化ボタンを押します。



(2)　確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。



7.3. テストサイクル設定を変更・削除する

テストサイクルの情報を変更・削除する方法を説明します。テストサイクルの情報は設定画面からいつでも変更可能です。

※テストサイクル設定の変更にはプロジェクト管理者以上の権限が必要です

7.3.1. テストサイクル設定を変更する

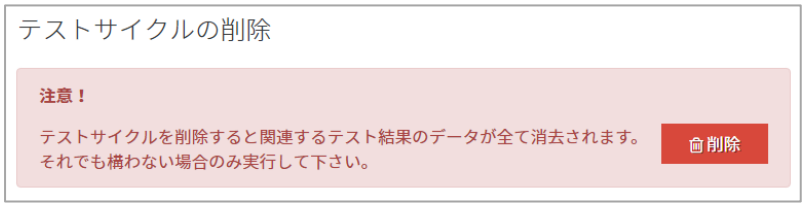
(1) テストサイクル一覧画面から変更したいテストサイクル名横の設定リンクをクリックします。

(2) 変更したい項目の入力を終えたら、更新するボタンを押してください。

7.3.2. テストサイクルを削除する

テストサイクルの削除はテストサイクル設定画面から行います。

(1) テストサイクル設定画面の最下部にある削除ボタンを押します。



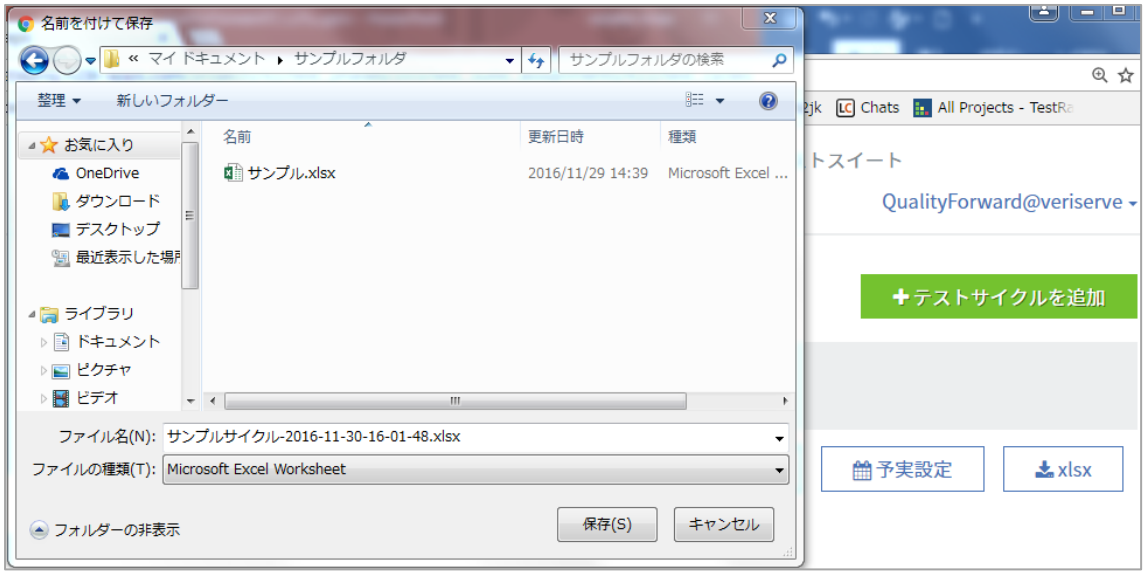
(2) 確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。

7.4. テストサイクルをエクスポートする

テスト結果はテストサイクル毎にエクセル形式でのダウンロードが可能です。

(1)　テストサイクル一覧画面からダウンロードしたいテストサイクルの xlsx ボタンを押します。

(2)　ダイアログボックスが表示されたらダウンロード先を選択して保存ボタンを押します。



第8章　実行管理

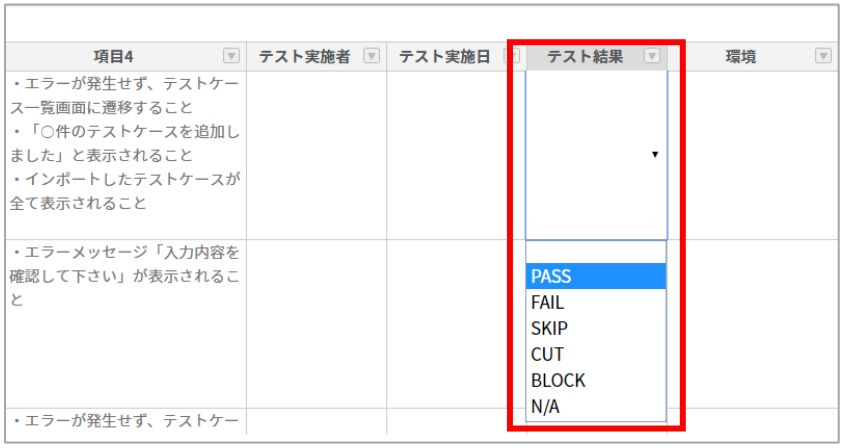
本章では、テスト実行の進め方と管理方法について説明します。

8.1. テストを実行する

テストスイート、テストフェーズ、テストサイクルの準備ができたらテストの実行に入ります。

(1)　テストサイクル一覧画面から、実行したいテストの開始ボタンを押します。

(2)　テスト結果はプルダウンで選択して入力できます。結果のラベルはプロジェクト作成時に設定したものが表示されます。



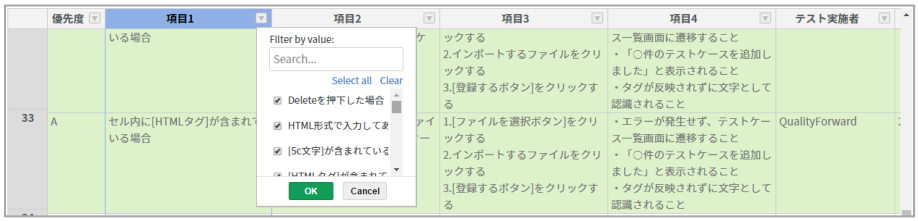
(3)　テスト結果を入力すると実施者と実施日が自動で入力されます。

(4)　テスト環境、バグ ID、備考欄は自由に入力可能です。

環境	バグID	備考
Windows7 Chrome	#000	サンプルデータ

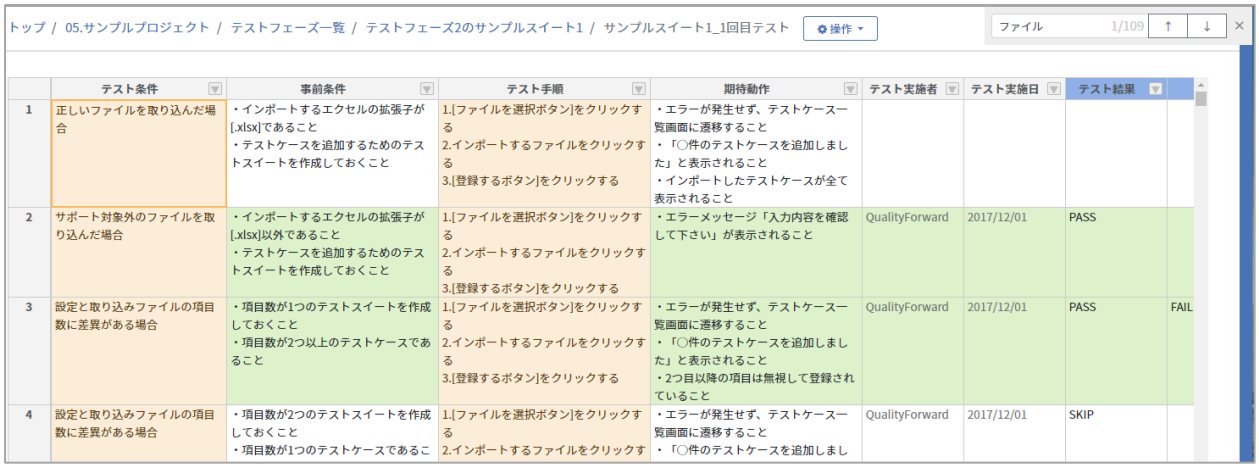
(5)　テストの実施状況はリアルタイムで更新されます。

(6)　テストケースにフィルタをかけ、まとめて編集も可能です。



(7)　テキストでフィルタをかける場合は、一度 Clear をクリックしてからテキスト入力を行い、表示されたフィルタにチェックを入れます。

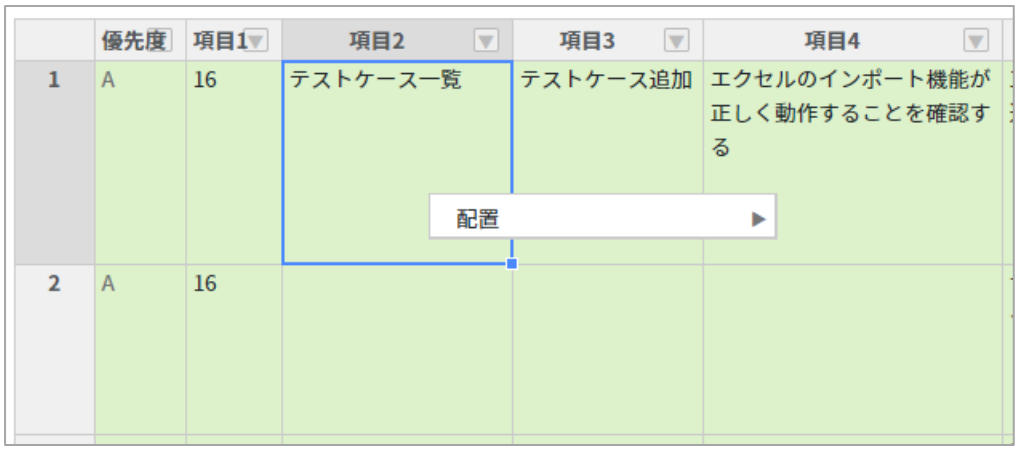
(8)　テストケース編集画面同様、テスト実行画面でもテキスト検索を行うことができます。Ctrl+F を押し、検索したいキーワードを入力したら Enter を押してください。



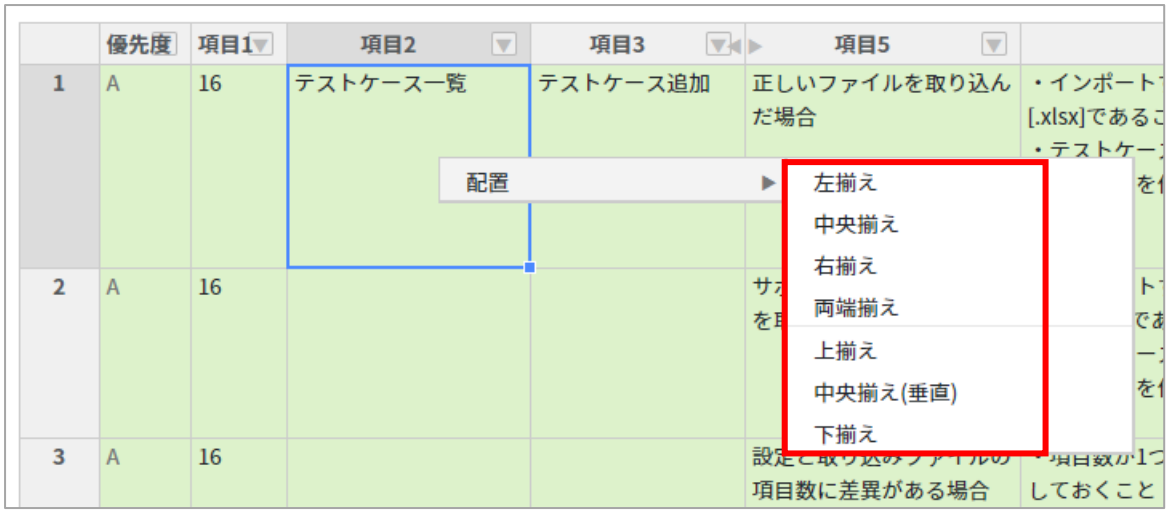
8.2. 文字列の配置を変更する

テスト実行画面のテストケースの文字配置を変更することができます。

(1)　文字の配置を変更したいセルまたは列を選択し、右クリックします。



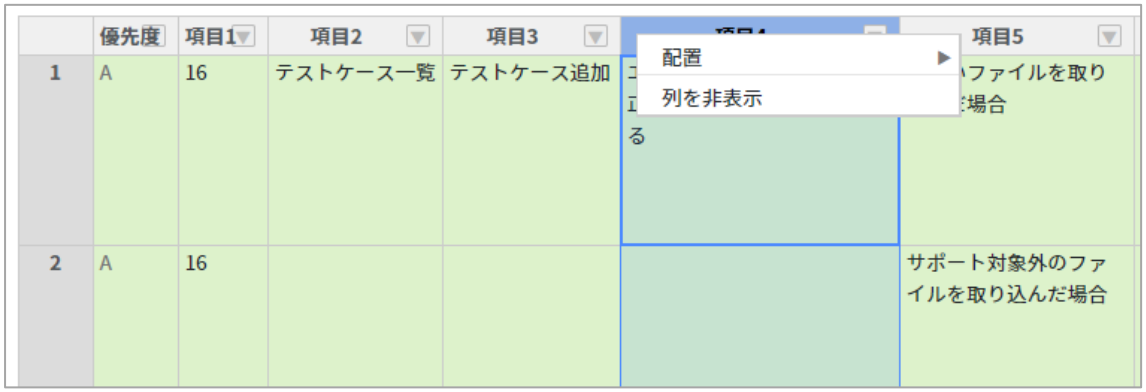
(2)　変更したい配置を選択すると選択されているセルの文字の配置を変えることができます。



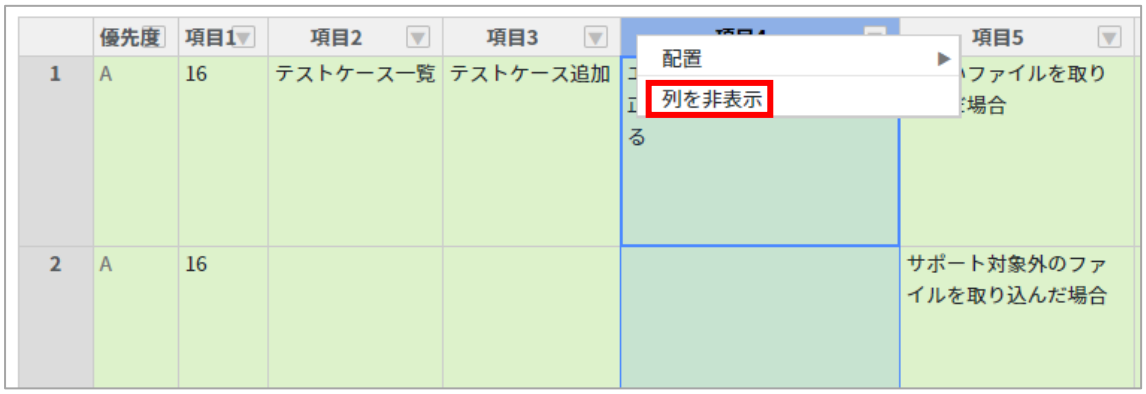
8.3. 列の表示・非表示を切り替える

テスト実行中に表示する必要がない列は非表示にすることができます。

(1)　テスト実行画面で非表示にしたい列の項目名を右クリックします。



(2)　列を非表示をクリックします。



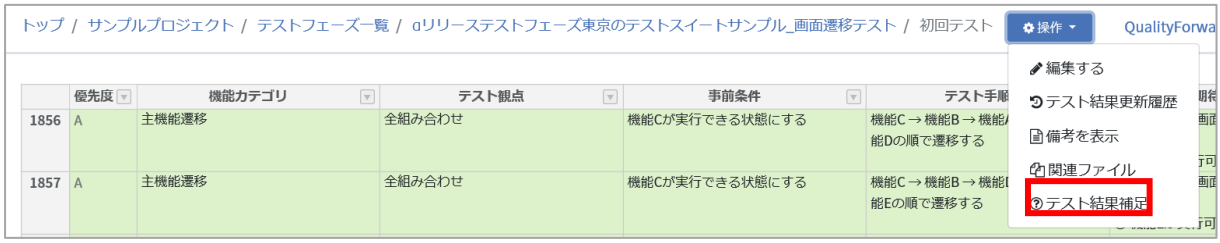
(3)　列を再表示する場合は、非表示になっている列の両隣の列を選択してから右クリックします。

(4)　列を表示をクリックします。

8.4. テスト結果補足の設定内容を確認する

プロジェクト設定でテスト結果補足を利用するチェックを on にした場合、実行画面からも確認することができます。

(1)　テスト実行画面上部の操作プルダウンからテスト結果補足リンクを押します。



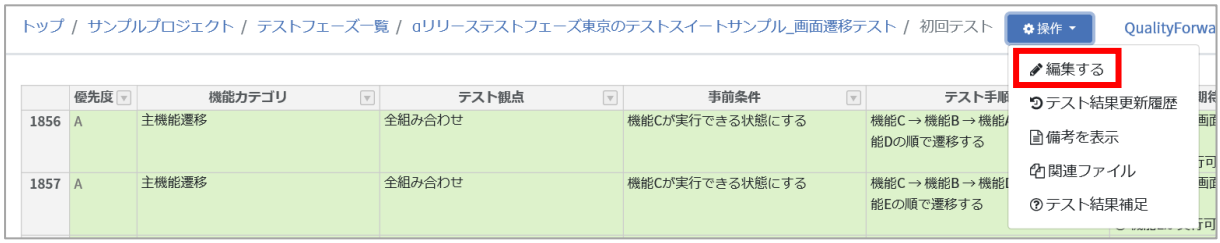
(2)　テスト結果補足に設定した内容を確認できます。

(3)　テスト結果が入力されている場合にテスト結果補足の入力を行うことができます。

8.5. テストケースを編集する

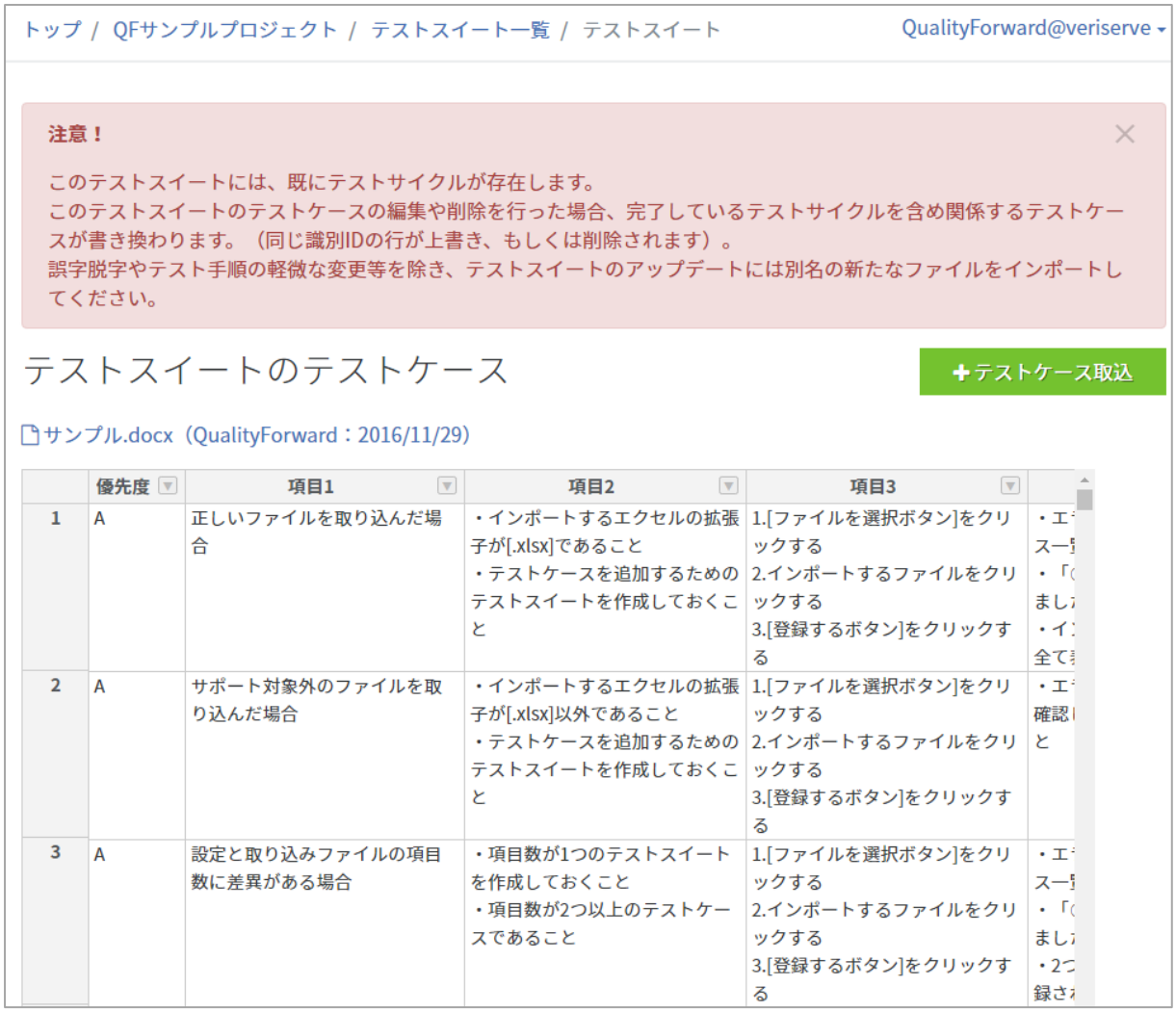
テスト実行画面から、テストケースの編集画面へ遷移することができます。

(1)　テストケースの編集を行う場合、テスト実行画面上部の操作プルダウンから編集するリンクを押し編集画面へ進みます。



(2)　テストケース編集はテストケース作成時と同様に自由に編集可能です。エクセルインポートで一括上書きも可能です。

※エクセルシートをインポート時に同じ識別 ID が存在する場合、既にあるデータにインポートデータが上書きされます。

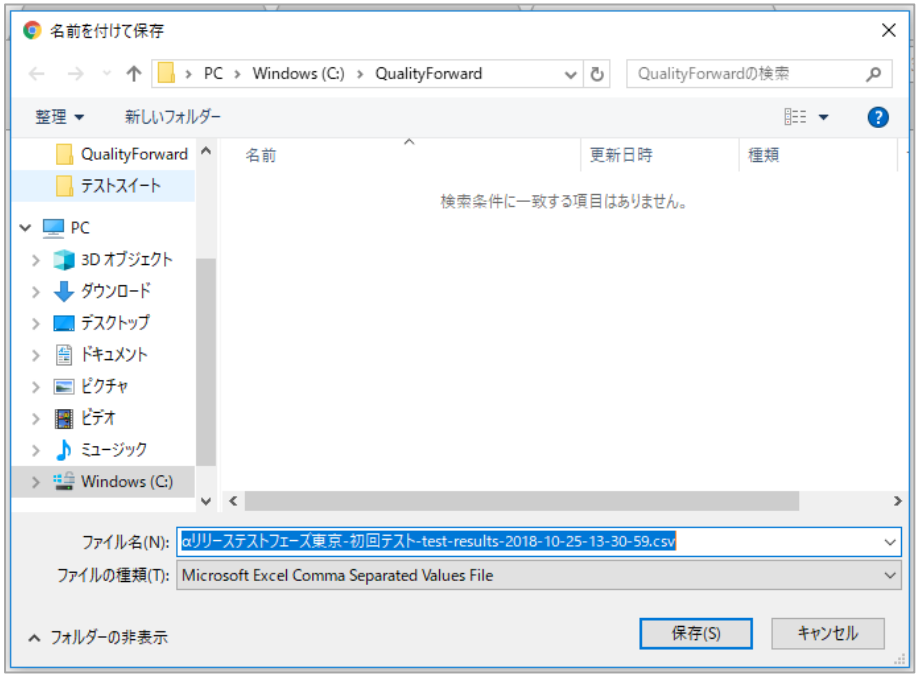


8.6. テスト結果をエクスポートする

テストサイクルで実行したテストの結果部分のエクスポートを行うことができます。

(1)　テストサイクル画面を開き、操作メニューから結果のエクスポートを選択します。

(2)　ダイアログボックスが開いたら保存先を選択し、保存ボタンを押します。



(3)　以下のような形式でテスト結果がエクスポートされます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	識別ID	テスト実施者	テスト実施日	テスト結果	テスト結果補足	環境	バグID	備考
2	1	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
3	2	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
4	3	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
5	4	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
6	5	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
7	6	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
8	7	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
9	8	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
10	9	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
11	10	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
12	11	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
13	12	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
14	13	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
15	14	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
16	15	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
17	16	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
18	17	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
19	18	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
20	19	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
21	20	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
22	21	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
23	22	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
24	23	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
25	24	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				
26	25	qualityf.user+27@gmail.com	2018/2/14 0:00	PASS				

8.7. テスト結果をインポートする

テスト結果インポートでは、まだ結果の入っていないテストサイクルに結果を書き込むことや、既に入力してあるテスト結果に対し上書きを行うことができます。

(1)　以下のように csv ファイルを作成します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	識別ID	テスト実施者	テスト実施日	テスト結果	テスト結果補足	環境	バグID	備考
2	1	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS	FAIL → PASS	Chrome	#00000	テスト結果インポート
3	2	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
4	3	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
5	4	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
6	5	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	FAIL		Chrome	#00000	
7	6	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
8	7	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
9	8	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	FAIL		Chrome	#00000	
10	9	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS	FAIL → PASS			
11	10	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
12	11	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
13	12	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
14	13	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	FAIL		Chrome	#00000	
15	14	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
16	15	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
17	16	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
18	17	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
19	18	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
20	19	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
21	20	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
22	21	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
23	22	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
24	23	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
25	24	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				
26	25	qualityf.user+27@gmail.com	2018/10/15 00:00:00	PASS				

※対象の識別 ID に対し書き込みを行うため、識別 ID は正しく指定してください

※プロジェクトに存在しないユーザはインポートすることができません

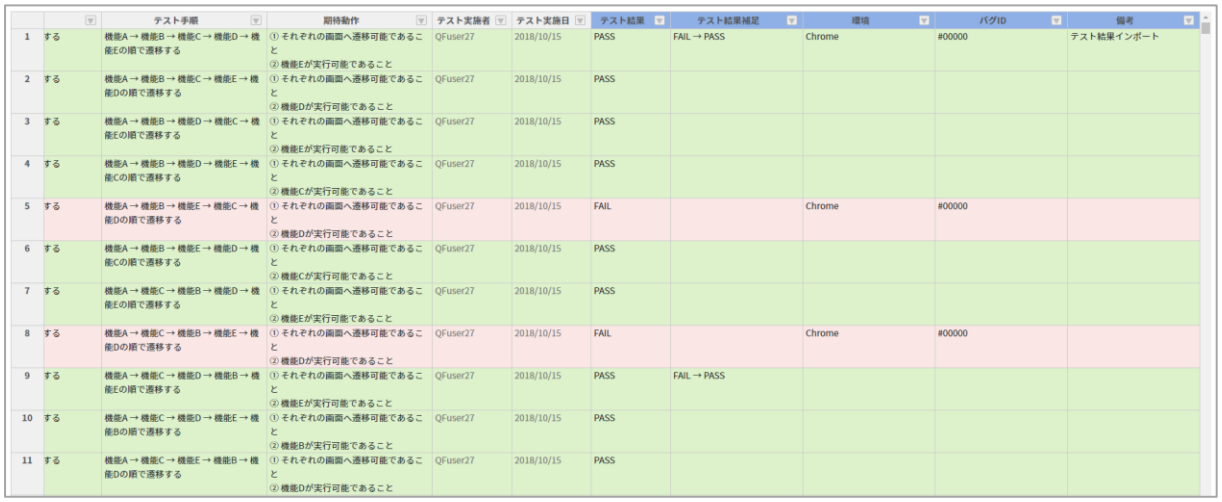
※日付の形式は「yyyy/mm/dd hh:mm:ss」です

※テスト結果、テスト結果補足は QualityForward 上の設定と、csv で指定した文字列が完全に一致している必要があります

(2)　テストサイクル画面を開き、操作メニューから結果のインポートを選択します。

(3)　テスト結果インポート画面が開いたら、手順(1)で作成した csv ファイルを指定し、登録するボタンを押します。

(4)　テスト結果がインポートされました。



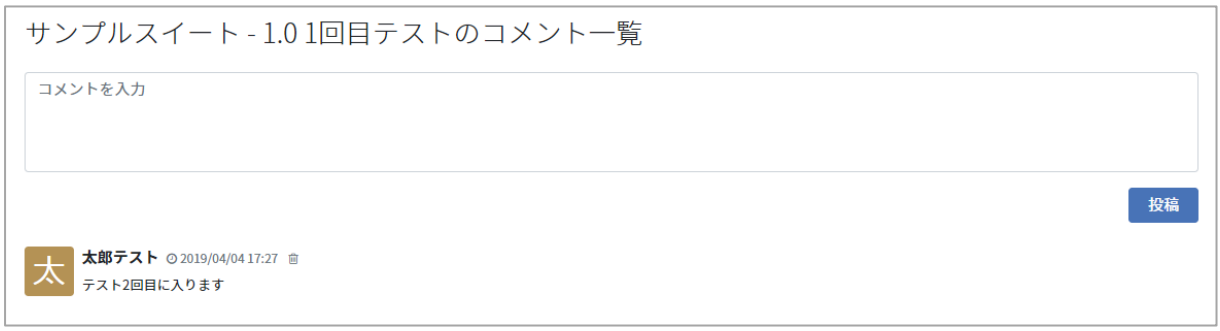
		テスト手順	期待動作	テスト実施者	テスト実施日	テスト結果	テスト結果補足	環境	バグID	備考
1	する	機能A → 機能B → 機能C → 機能D → 機能Eの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Eが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	PASS	FAIL → PASS	Chrome	#00000	テスト結果インポート
2	する	機能A → 機能B → 機能C → 機能E → 機能Dの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Dが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	PASS				
3	する	機能A → 機能B → 機能D → 機能C → 機能Eの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Eが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	PASS				
4	する	機能A → 機能B → 機能D → 機能E → 機能Cの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Cが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	PASS				
5	する	機能A → 機能B → 機能E → 機能C → 機能Dの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Dが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	FAIL		Chrome	#00000	
6	する	機能A → 機能B → 機能E → 機能D → 機能Cの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Cが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	PASS				
7	する	機能A → 機能C → 機能B → 機能D → 機能Eの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Eが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	PASS				
8	する	機能A → 機能C → 機能B → 機能E → 機能Dの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Dが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	FAIL		Chrome	#00000	
9	する	機能A → 機能C → 機能D → 機能B → 機能Eの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Eが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	PASS	FAIL → PASS			
10	する	機能A → 機能C → 機能D → 機能E → 機能Bの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Bが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	PASS				
11	する	機能A → 機能C → 機能E → 機能B → 機能Dの順で遷移する	① それぞれの画面へ遷移可能であること ② 機能Dが実行可能であること	QFuser27	2018/10/15	PASS				

8.8. 掲示板でテスト状況の報告を行う

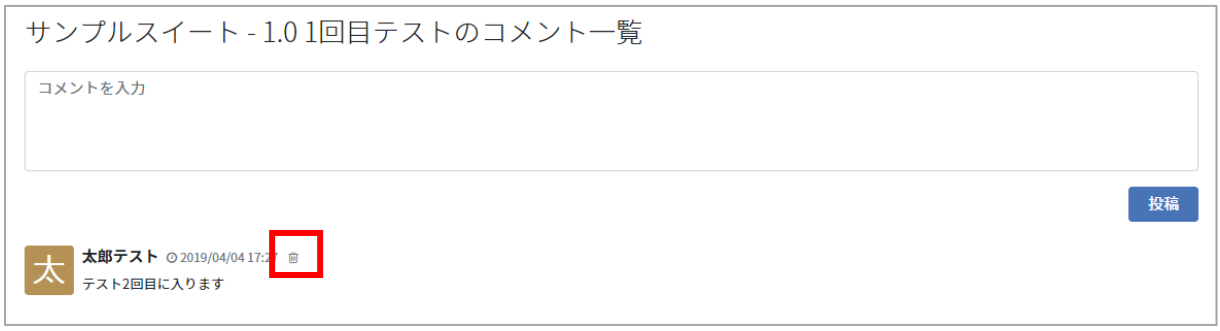
各テストサイクルには掲示板が設置されており、プロジェクト内のユーザ同士でコメントのやり取りを行うことができます。

(1)　テストサイクル一覧からコメントボタンを押します。

(2)　任意のメッセージを入力し、投稿ボタンを押すとコメントが投稿されます。コメントを投稿すると、対象のテストサイクル実施者へメールで通知されます。



(3)　コメントの削除も行うことができます。投稿したコメントの名前の横にあるゴミ箱マークをクリックします。



(4)　コメント削除の確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。

8.9. レビューを依頼する

テストが終わったらテスト実施者はレビュー依頼をすることができます。レビュー依頼をするとレビュワーに指定されたメールアドレスにレビュー依頼通知が送信され、レビュー待ちのテストサイクル一覧に対象のテストサイクルが表示されます。

(1) 対象のテストサイクルの親となるテストフェーズの設定画面を開き、レビュワーのメールアドレスを確認します。レビュワーはいつでも追加、削除することができます。

(2) レビュー依頼を出したいテスト実行画面最下部のレビュー依頼ボタンを押します。

(3) 任意のメッセージを入力し、送信ボタンを押します。

(4) レビュー依頼やレビュー完了などの通知は、メールで通知された URL、またはテストサイクル一覧画面のコメントボタンから開ける掲示板にも記載されます。

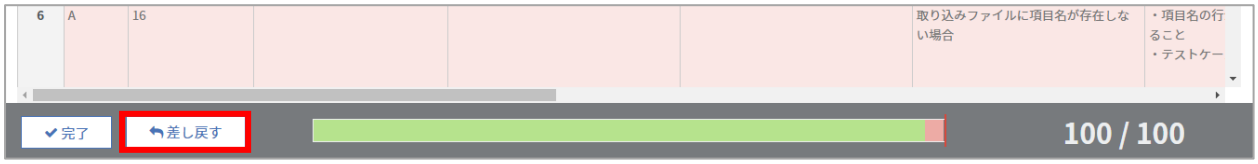
8.10. レビュー依頼を差し戻す

ダッシュボードでレビュー待ちのテストサイクルの一覧を確認できます。レビュー待ちのテスト

ケースに不備があった場合、テスト実施者へレビュー依頼の差し戻しを行います。

(1)　レビュー待ちのテストサイクルを開きます。

(2)　テスト実行画面最下部の差し戻すボタンを押します。



(3)　差し戻し理由を入力し、送信ボタンを押します。

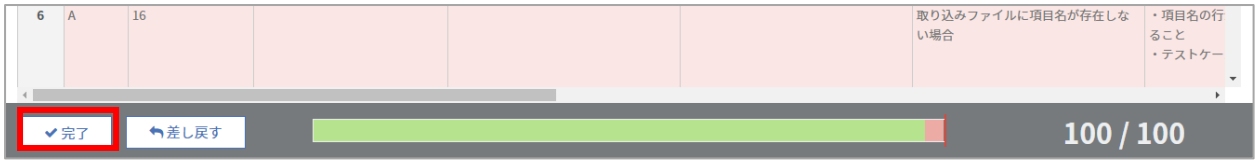
(4)　テスト実施者へ差し戻しメールが送信され、掲示板にも差し戻しが通知されます。

8.11. レビューを完了する

テスト実行結果に不備がなければ、テストサイクルを完了とさせることができます。レビューを完了したテストサイクルは閲覧専用となり、編集を行うことができなくなります。

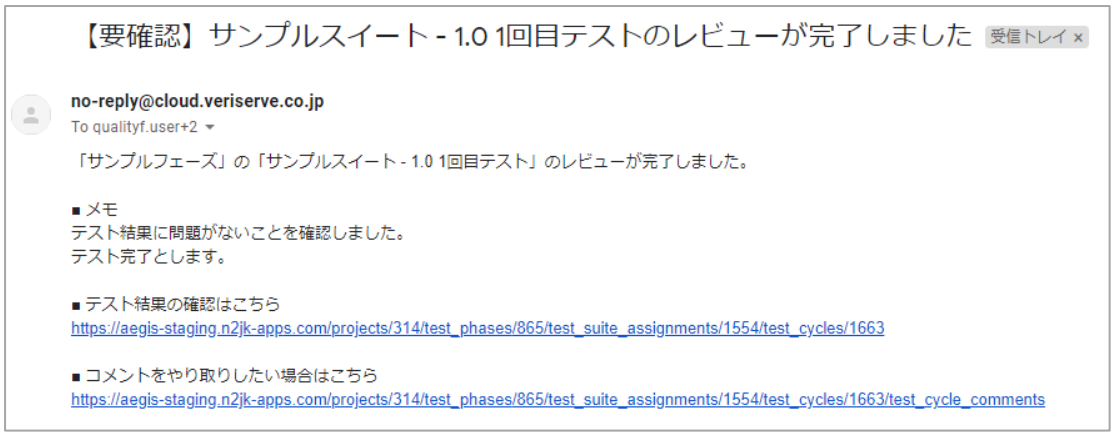
(1) レビュー待ちのテストサイクルを開きます。

(2) テスト実行画面最下部の完了ボタンを押します。



(3) 任意のメッセージを入力したら送信ボタンを押します。

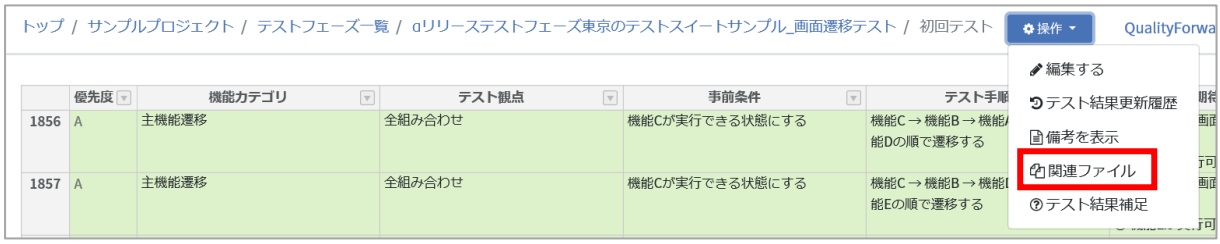
(4)　レビュー完了通知がテスト実施者へ送信され、掲示板にもレビュー完了が通知されます。



8.12.　関連ファイルを確認する

テストスイート作成時にアップロードした関連ファイルをテスト実行画面からダウンロードできます。

(1)　テスト実行画面上部の操作プルダウンから関連ファイルをクリックします。



(2)　関連ファイル一覧画面が表示されたら、ダウンロードしたいファイルをクリックします。

8.13.　実行時間を確認する

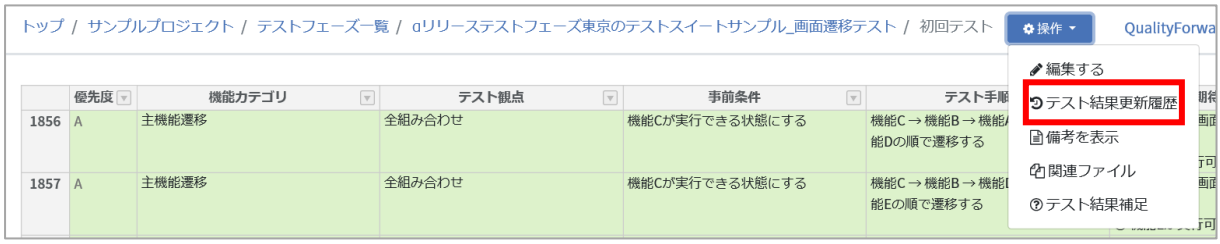
テストスイートに対し、テストが実行された時間の確認ができます。テストスイート一覧画面のテストスイート名の下に直近の実行時間が表示されます

※実行時間はテスト実行のチェック依頼が完了になると算出されます。

8.14. 更新履歴管理

テスト結果の更新履歴を見ることができます。どのテストケースに対し、誰が・いつ・どのように変更を加えたかを一覧で表示します。

(1) テスト実行画面上部の操作プルダウンからテスト結果更新履歴のリンクをクリックします。



(2) テスト結果更新履歴の一覧が表示されます。更新履歴は最初の入力の後に更新が行われた場合のみ出力されます。

第9章　レポート管理

レポート画面ではプロジェクト全体、フェーズ毎のテスト実施予定数や進捗状況、欠陥数やクローズ数などをまとめて確認できます。

9.1. プロジェクト全体のレポート

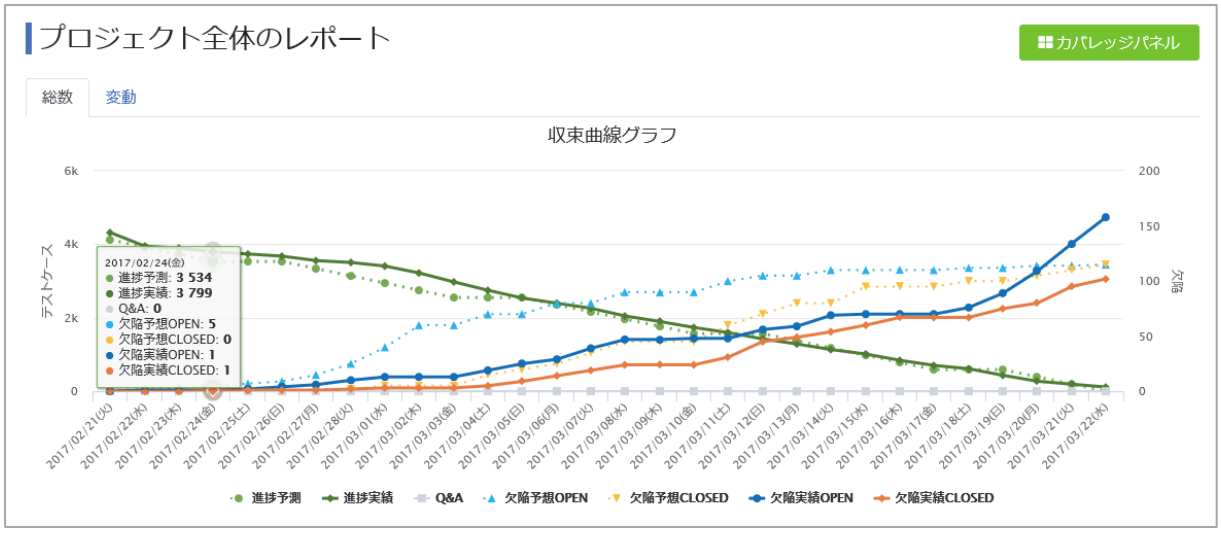
プロジェクト全体の進捗状況をひと目で確認することができます。

9.1.1.　収束曲線(総数)

予実設定やテストケース数が増えたタイミングに関係なく、プロジェクト全体のテストケース数から実績を見るグラフです。

(1)　ダッシュボード画面左のメニューからレポートのリンクをクリックします。

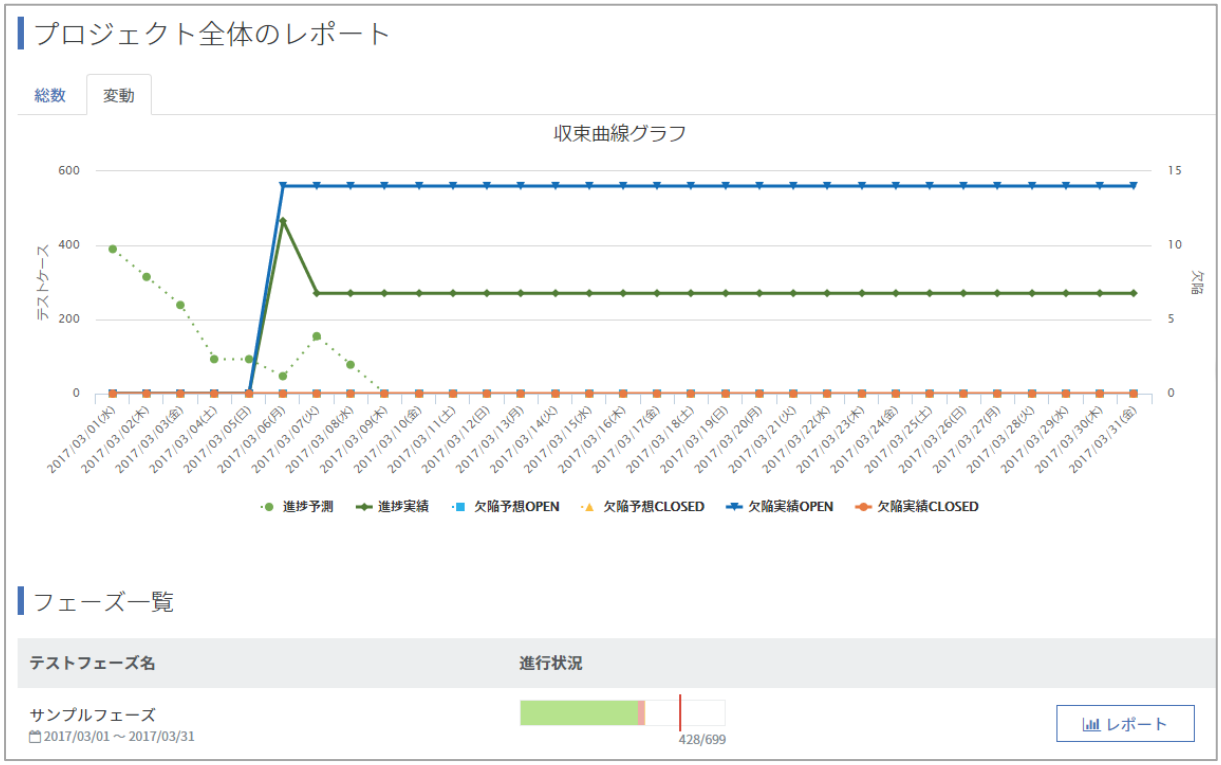
(2)　カーソルを合わせると日付毎に予定と進捗が確認できます。



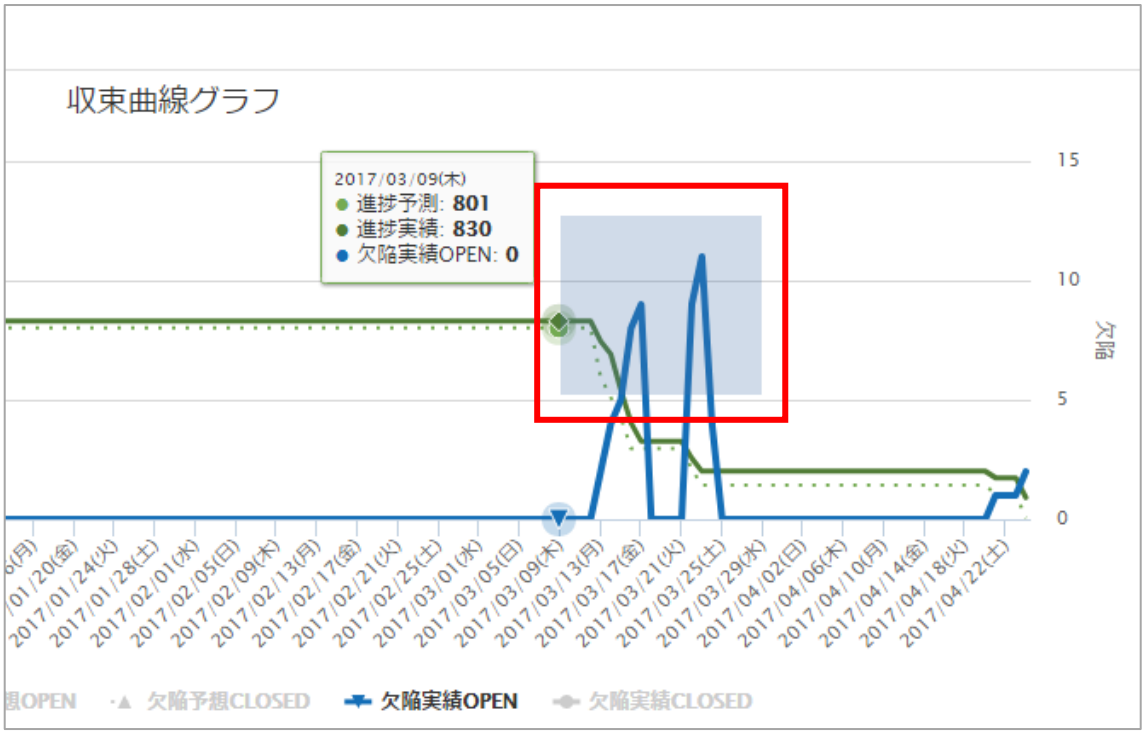
9.1.2. 収束曲線(変動)

変動グラフはテストケース数に増減があったタイミングで予定数が変動します。

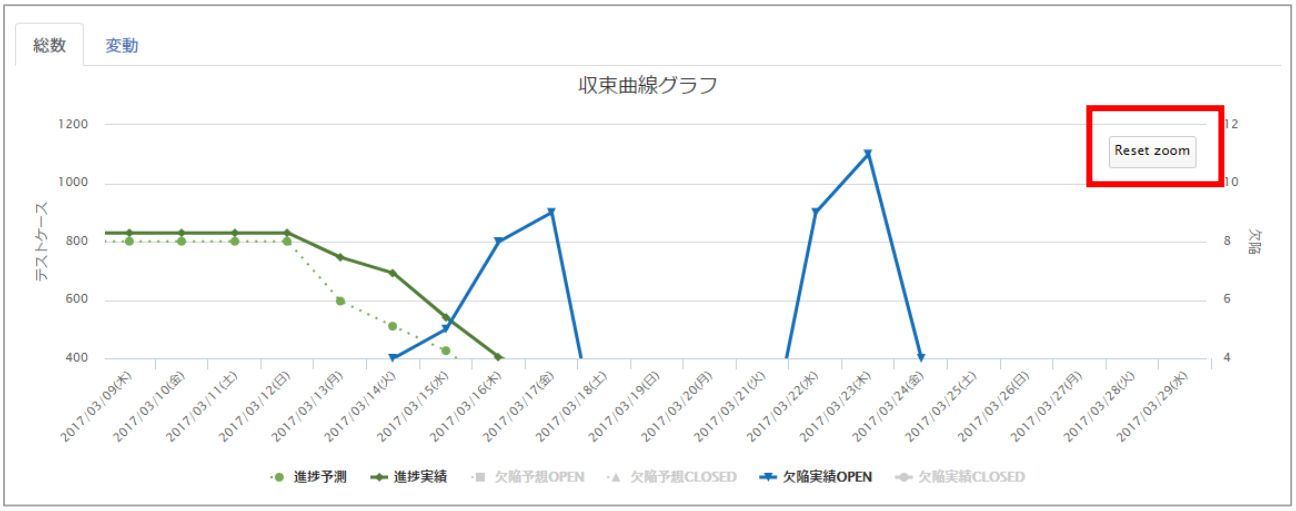
(1) カーソルを合わせると日付毎に予定と進捗が確認できます。



※収束曲線グラフが細かくて見づらい場合、ドラッグで範囲選択するとその部分をズームして見ることができます。



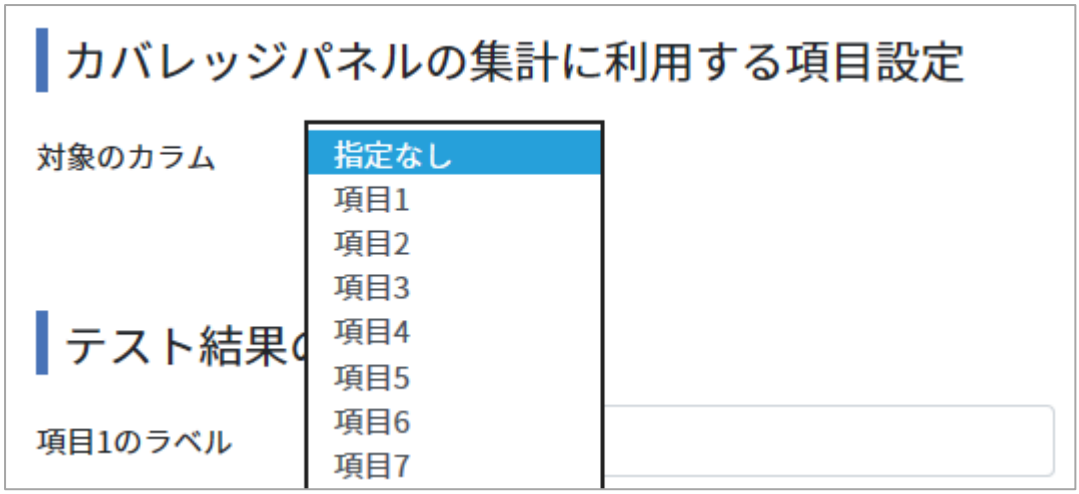
元に戻す場合はグラフ右上に表示される Reset zoom ボタンを押します。



9.1.3. プロジェクト全体のカバレッジパネル

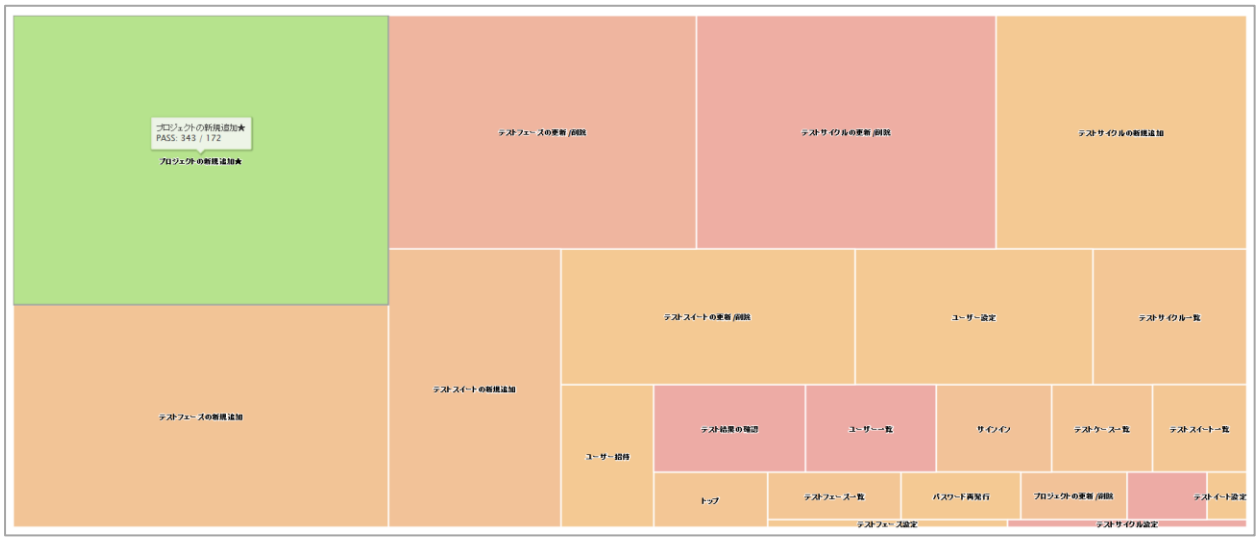
プロジェクトのテストスイートに対し、どんな機能・観点に向けたテストケースがどれぐらい存在し、そのテストがどれぐらい実行されているかをひとめで確認できます。

(1) テストスイートの設定画面から、カバレッジパネルの集計に利用する項目設定で集計対象とするカラムを選択し保存します。



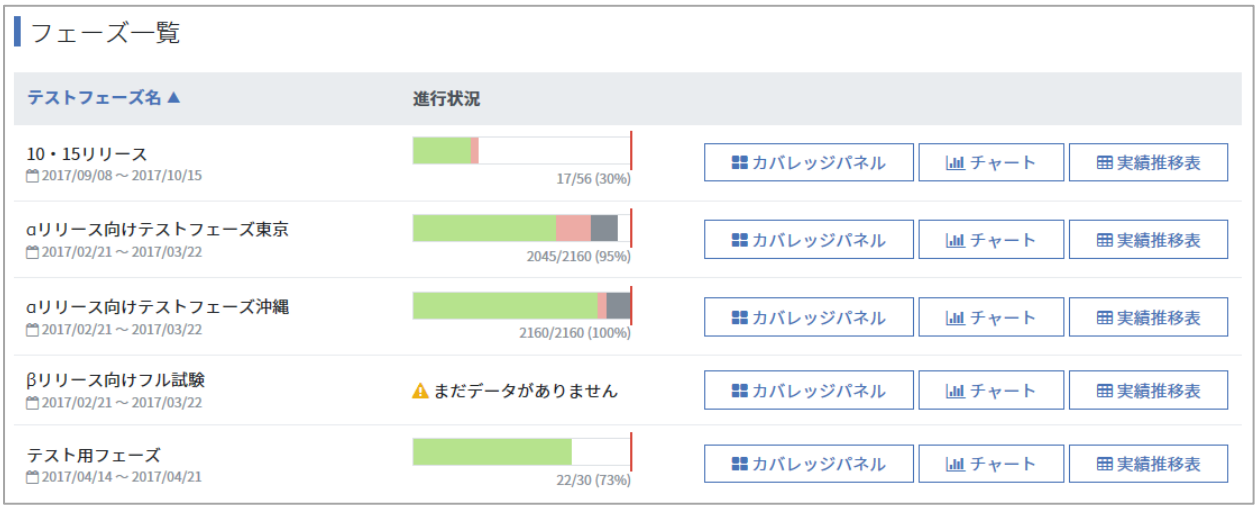
(2)　レポート画面を開き、プロジェクト全体の収束曲線グラフ右上にあるカバレッジパネルボタンを押します。

(3)　テストスイート設定画面で対象のカラムを指定してある全テストスイートから集計されます。テストがクリアした件数に応じて色が緑に変わっていきます。カーソルを合わせると全部で何件のテストケースが存在し、何件のテストがクリアしたかを確認できます。
全てのテストがクリアとなった場合、★マークが表示されます。



9.1.4.　フェーズ一覧

プロジェクトに登録されているテストフェーズの一覧が表示されます。



9.2. フェーズ毎レポート

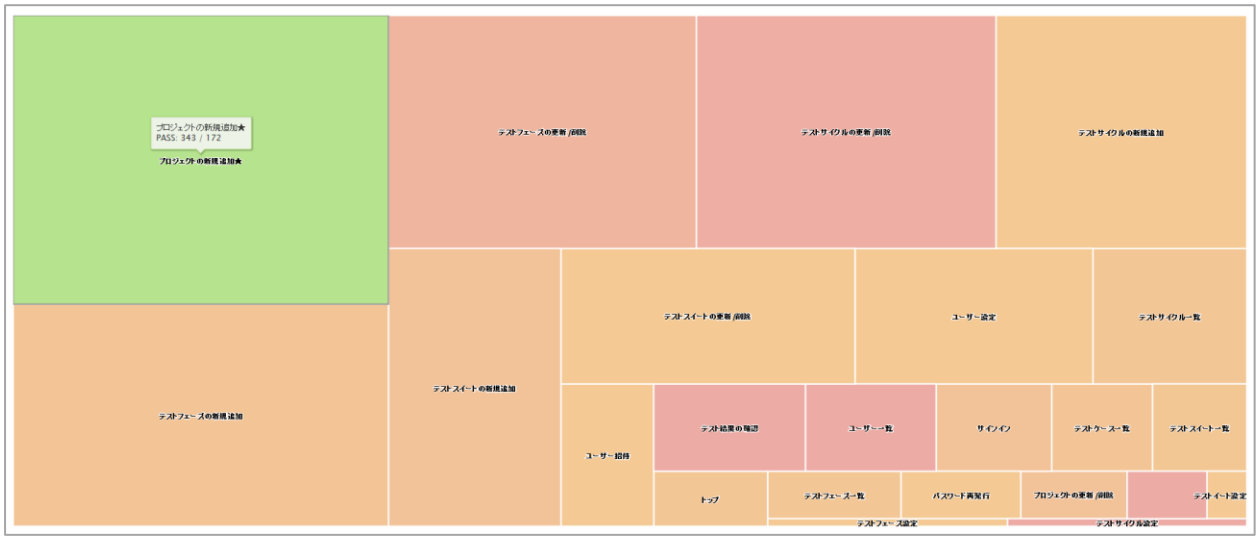
フェーズ単位でのテスト予定と実績を確認できます。

9.2.1.　フェーズ毎のカバレッジパネル

フェーズのテストスイートに対し、どんな機能・観点に向けたテストケースがどれぐらい存在し、そのテストがどれぐらい実行されているかをひとめで確認できます。

(5)　フェーズ毎のカバレッジパネルを確認する場合は、プロジェクト全体レポートのフェーズ一覧右側にあるカバレッジパネルボタンを押します。

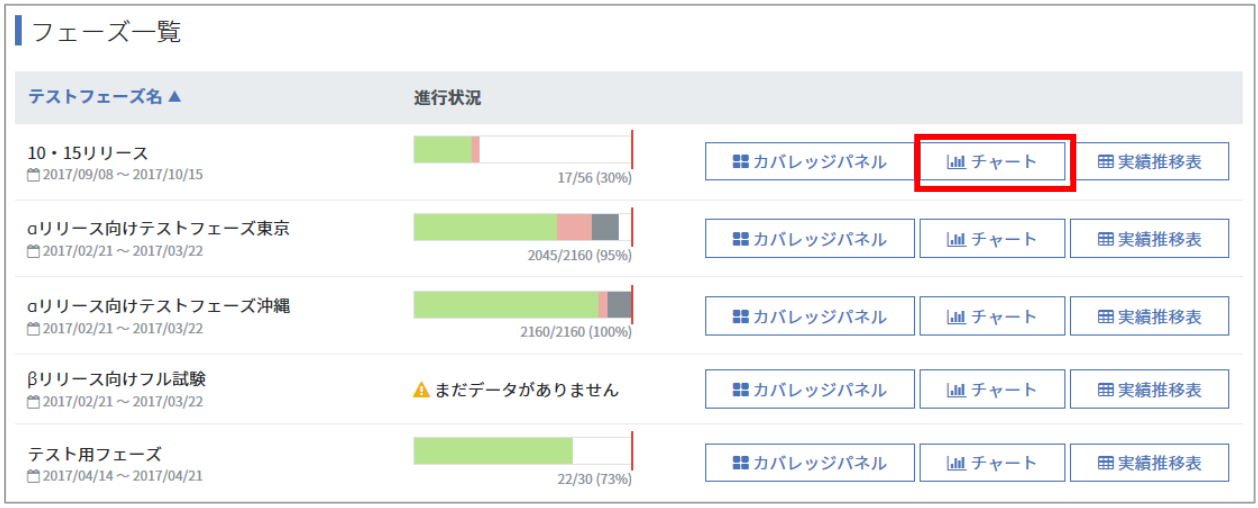
(6)　テストスイート設定画面で対象のカラムを指定してあるテストスイートから集計されます。テストがクリアした件数に応じて色が緑に変わっていきます。カーソルを合わせると全部で何件のテストケースが存在し、何件のテストがクリアしたかを確認できます。
全てのテストがクリアとなった場合、★マークが表示されます。



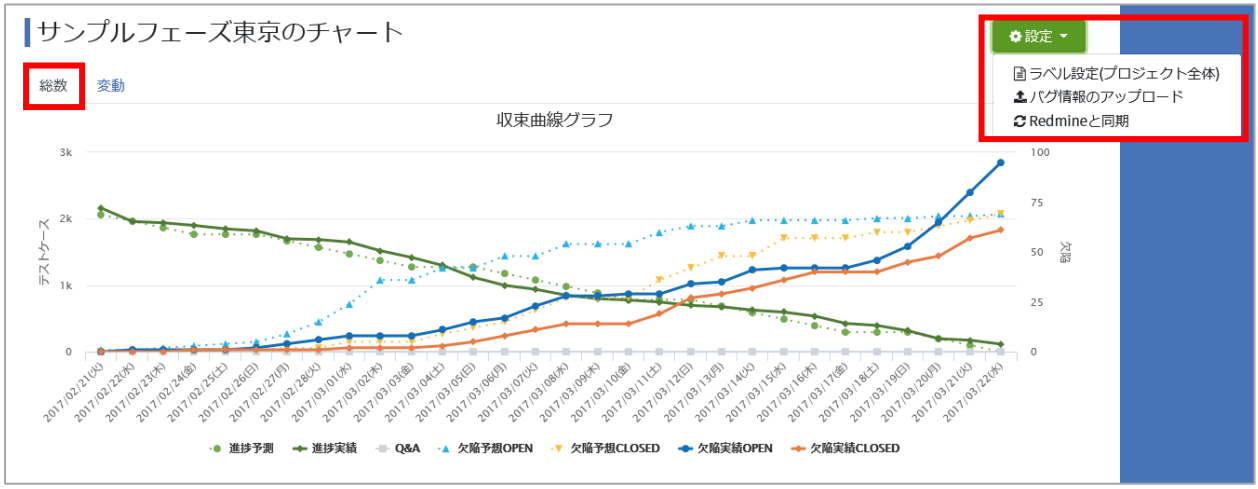
9.2.2.　収束曲線(総数)

予実設定やテストケース数が増えたタイミングに関係なく、フェーズ全体のテストケース数から実績を見るグラフです。

(1)　フェーズ毎のレポートを確認する場合は、プロジェクト全体レポートのフェーズ一覧右側にあるチャートボタンを押します。



(2)　カーソルを合わせると日付毎に予定と進捗が確認できます。



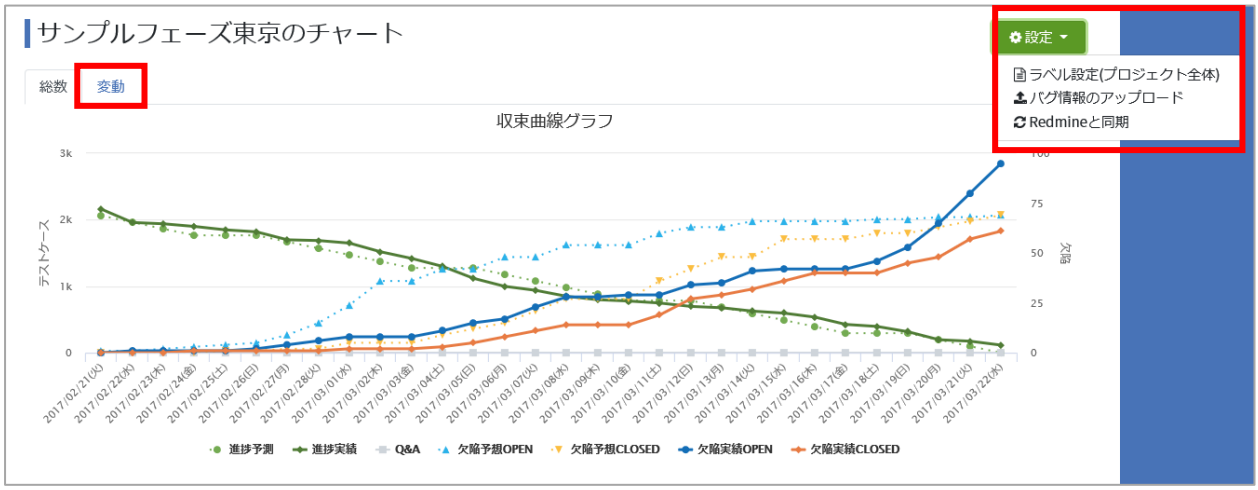
(3)　正しいバグ数を取得するには、フェーズ設定画面で Redmine または JIRA との連携用 URL を設定したうえで画面右上の設定メニューから Redmine と同期(JIRA と連携を行っている場合は JIRA と同期)リンクをクリックします。

※Redmine・JIRA との同期は 1 日 3 回自動で行われます。「今、この瞬間」のレポートを確認したい場合は Redmine と同期（JIRA と連携を行っている場合は JIRA と同期）リンクを押してください。

9.2.3.　収束曲線(変動)

変動グラフはテストケース数に増減があったタイミングで予定数が変動します。

(1)　カーソルを合わせると日付毎に予定と進捗が確認できます。



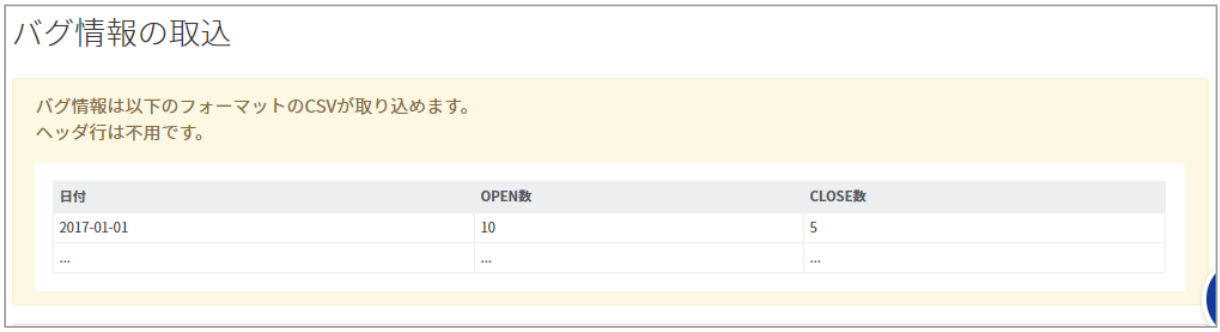
(2)　正しいバグ数を取得するには、フェーズ設定画面で Redmine または JIRA との連携用 URL を設定したうえで画面右上の設定メニューから Redmine と同期(JIRA と連携を行っている場合は JIRA と同期)リンクをクリックします。

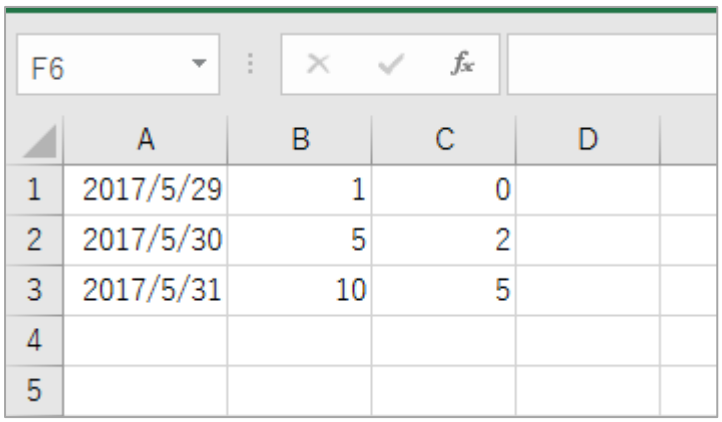
※Redmine・JIRA との同期は 1 日 3 回自動で行われます。「今、この瞬間」のレポートを確認したい場合は Redmine と同期（JIRA と連携を行っている場合は JIRA と同期）リンクを押してください。

9.2.4.　欠陥実績数を CSV で登録する

欠陥の OPEN、CLOSE 実績数を CSV で直接登録する方法を説明します。

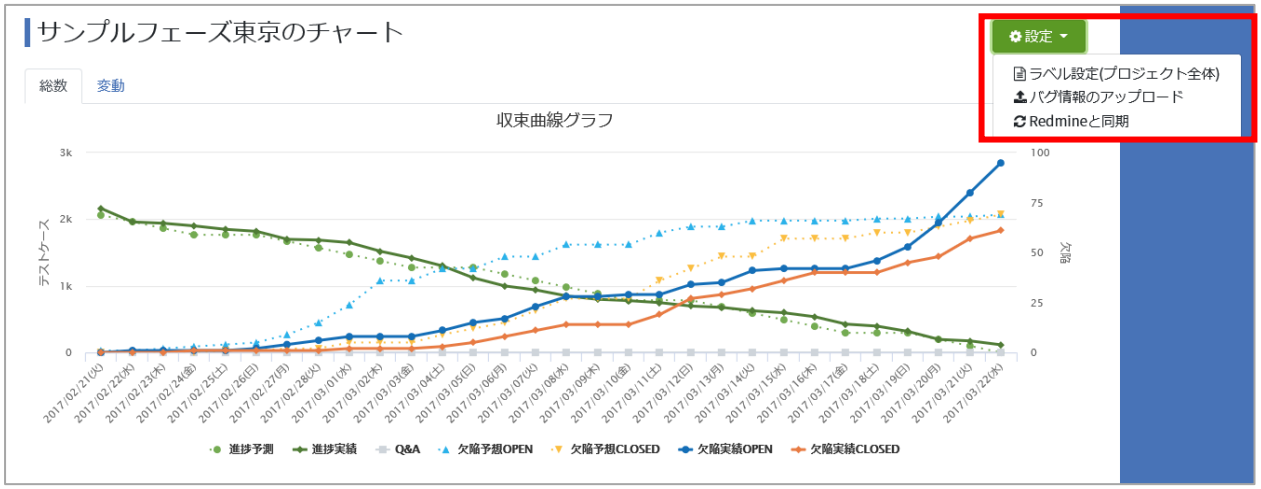
(1)　以下のフォーマットに合わせて、日付・OPEN 数・CLOSE 数を入力した CSV ファイルを作成します。





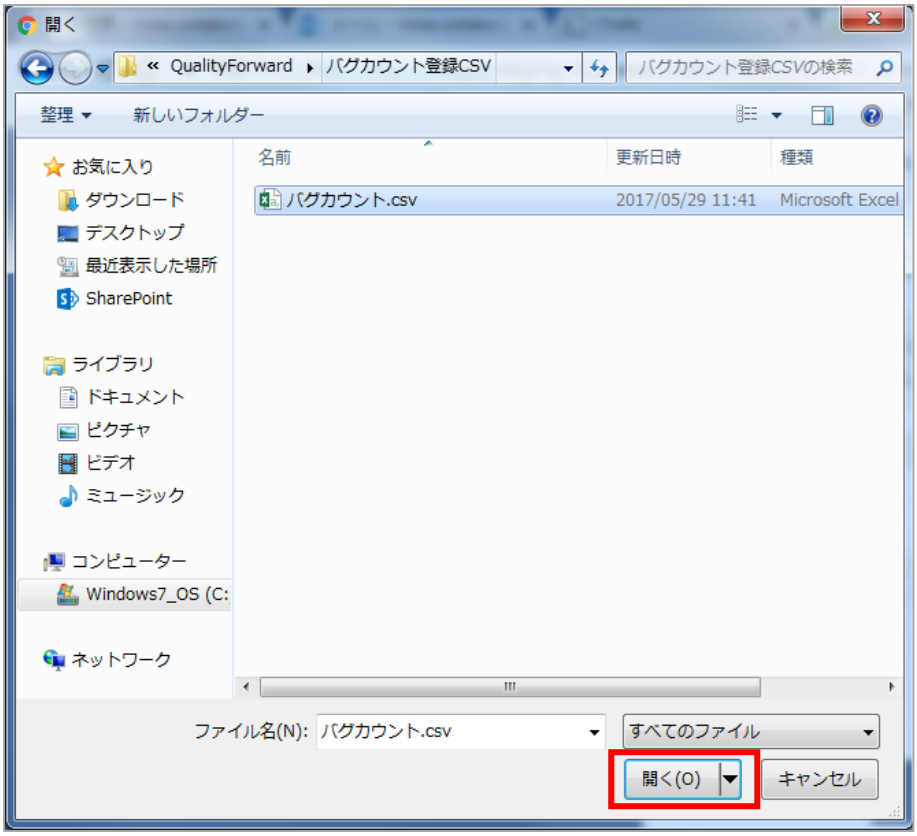
※ヘッダ行は不要です。

(2)　対象のテストフェーズレポートを開き、右上の設定メニューからバグ情報をアップロードリンクをクリックします。



(3)　バグ情報の取込ページを開いたら、ファイルを選択ボタンを押します。

(4)　手順(1)で用意した CSV ファイルを選択します。

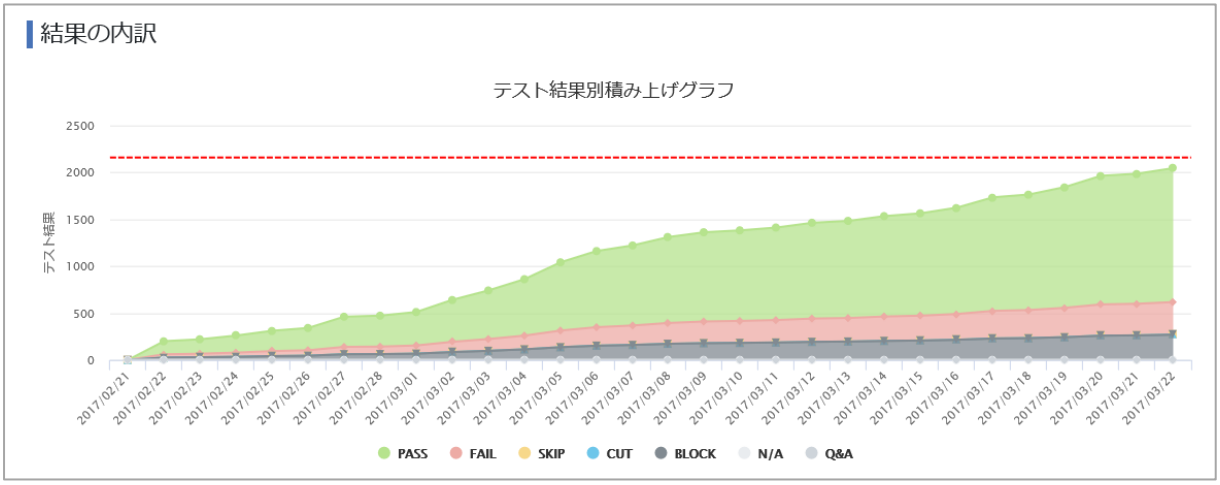


(5)　登録するボタンを押します。

(6)　収束曲線画面へ遷移すれば登録成功です。

9.2.5.　進捗の内訳

対象のテストフェーズで実行されているテストの進捗件数のうち、どの結果が何件あるかを確認できます。

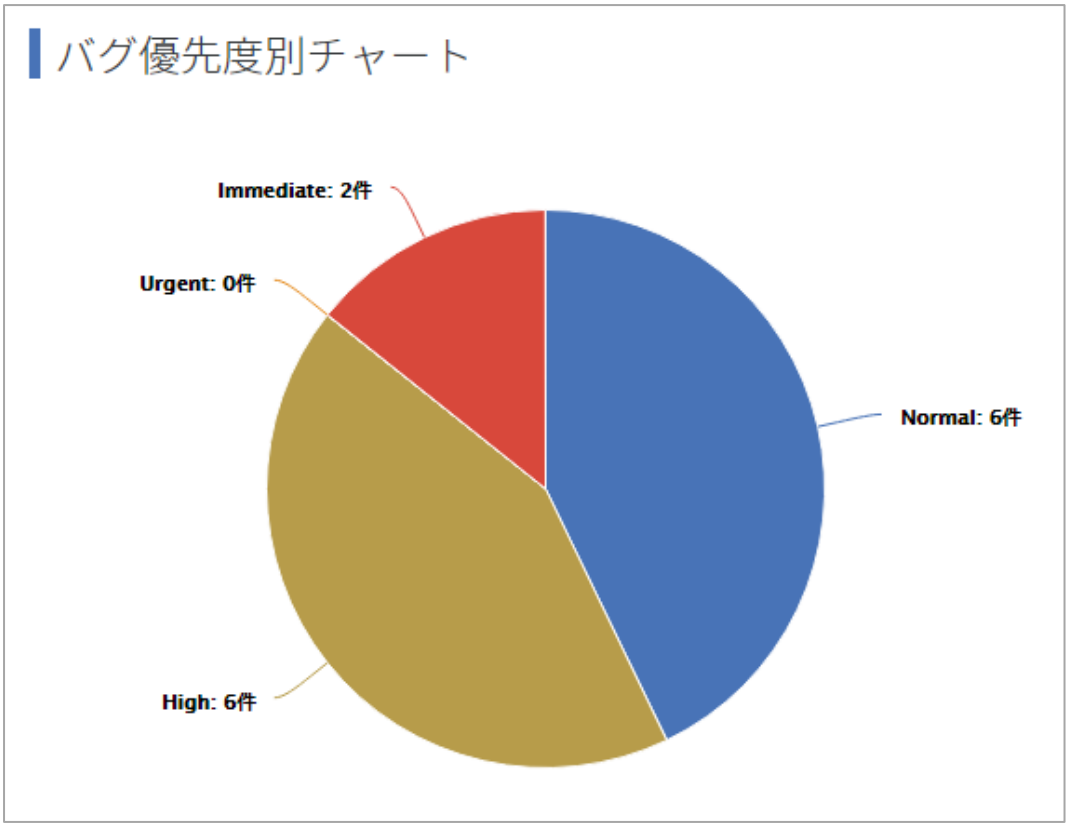


9.2.6. 最近のインシデント

インシデント取得用の URL が設定済みの場合(手順 6.2.4 参照)最近のインシデント 10 件がレポート画面に表示されます。もっと見るリンクをクリックすることで、Redmine に遷移できます。

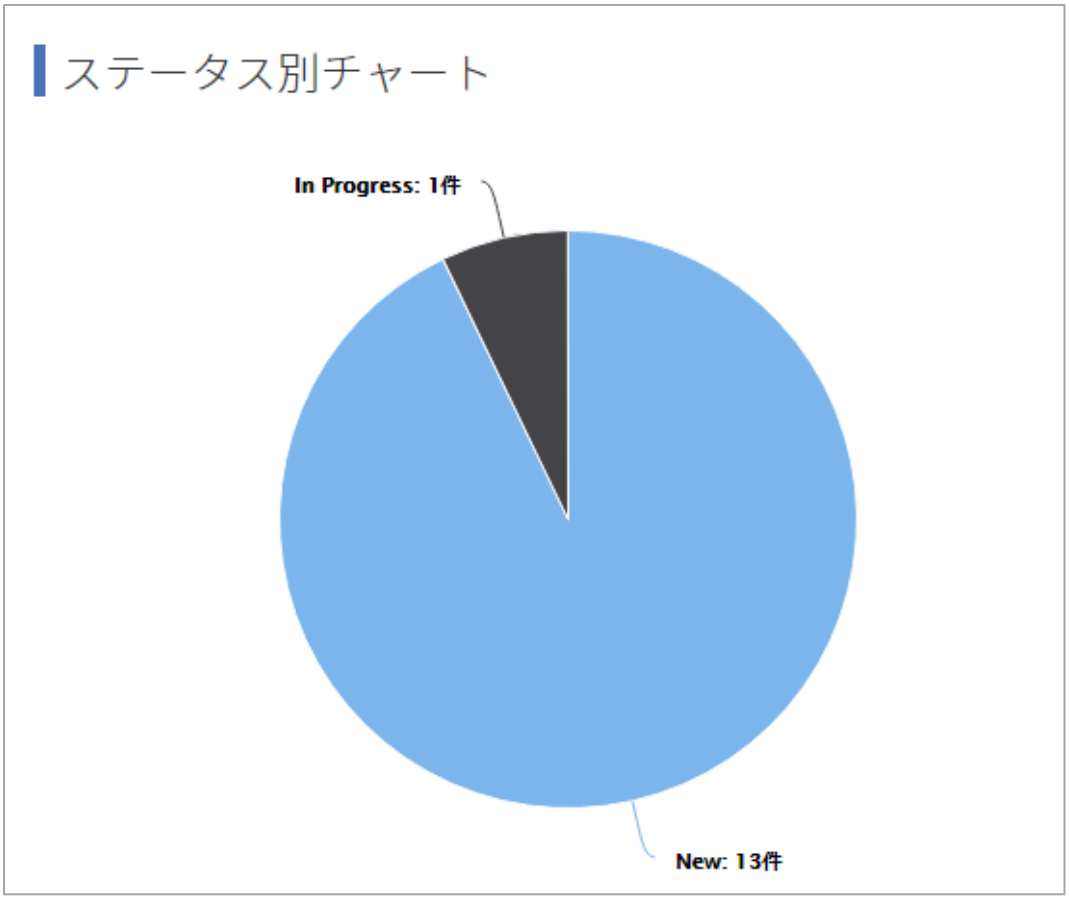
9.2.7.　バグ優先度別チャート

Redmine のベース URL を登録(手順 6.2.2 参照)しておけば、登録済みのチケットのうち、どの優先度のチケットがどれだけあるかをひと目で確認できるチャートが表示されます。



9.2.8.　ステータス別チャート

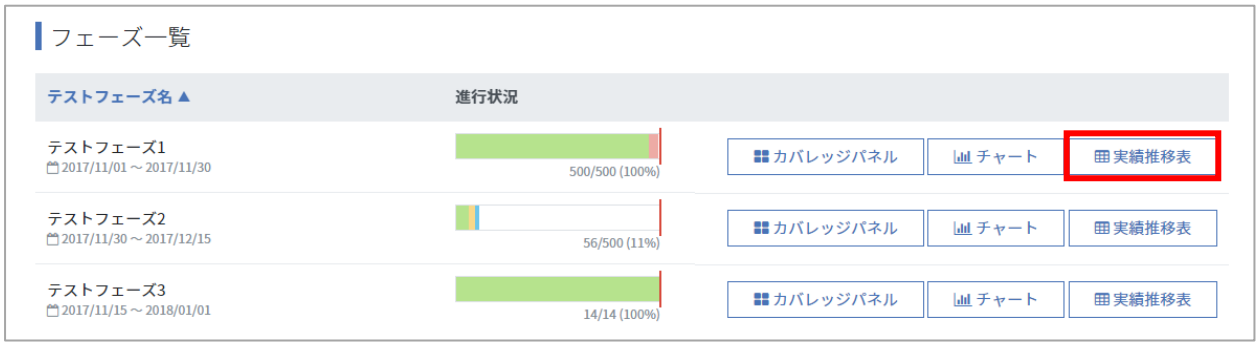
バグ取得用 URL を登録(手順 6.2.3 参照)しておけば、登録済みチケットの各ステータスが何件ずつあるかを確認できるチャートが表示されます。



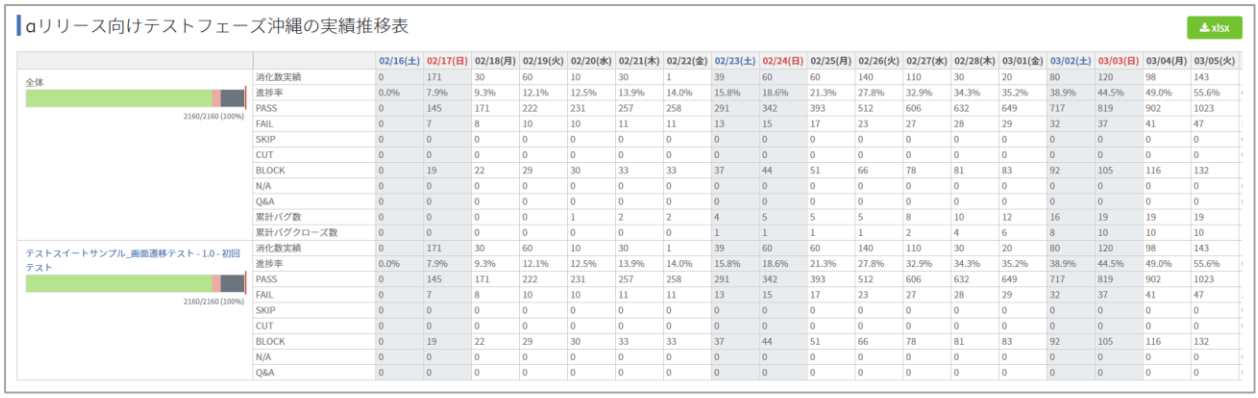
9.2.9. 実績推移表

テストフェーズ単位で、フェーズ全体、およびテストサイクルごとの日々の実績、進捗率を集計、記録します。

(1) プロジェクト全体レポートのフェーズ一覧から実績を確認したいフェーズの実績推移表ボタンを押します。



(2) 対象フェーズとプロジェクト全体の実績推移表が表示されます。



aリリース向けテストフェーズ沖縄の実績推移表

xlsx

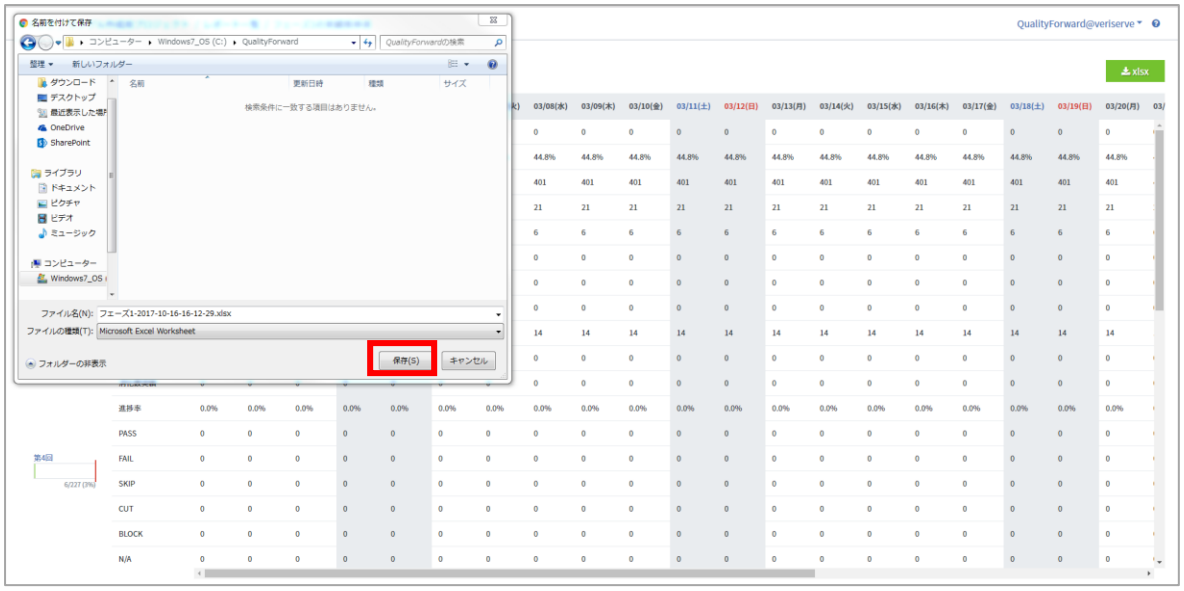
		02/16(土)	02/17(日)	02/18(月)	02/19(火)	02/20(水)	02/21(木)	02/22(金)	02/23(土)	02/24(日)	02/25(月)	02/26(火)	02/27(水)	02/28(木)	03/01(金)	03/02(土)	03/03(日)	03/04(月)	03/05(火)
全体	消化数実績	0	171	30	60	10	30	1	39	60	60	140	110	30	20	80	120	98	143
2160/2160 (100%)	進捗率	0.0%	7.9%	9.3%	12.1%	12.5%	13.9%	14.0%	15.8%	18.6%	21.3%	27.8%	32.9%	34.3%	35.2%	38.9%	44.5%	49.0%	55.6%
	PASS	0	145	171	222	231	257	258	291	342	393	512	606	632	649	717	819	902	1023
	FAIL	0	7	8	10	10	11	11	13	15	17	23	27	28	29	32	37	41	47
	SKIP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	CUT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BLOCK	0	19	22	29	30	33	33	37	44	51	66	78	81	83	92	105	116	132
	N/A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q&A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累計バグ数	0	0	0	0	1	2	2	4	5	5	5	8	10	12	16	19	19	19
	累計バグクローズ数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	4	6	8	10	10	10
テストスイートサンプル_画面遷移テスト - 1.0 - 初回テスト	消化数実績	0	171	30	60	10	30	1	39	60	60	140	110	30	20	80	120	98	143
2160/2160 (100%)	進捗率	0.0%	7.9%	9.3%	12.1%	12.5%	13.9%	14.0%	15.8%	18.6%	21.3%	27.8%	32.9%	34.3%	35.2%	38.9%	44.5%	49.0%	55.6%
	PASS	0	145	171	222	231	257	258	291	342	393	512	606	632	649	717	819	902	1023
	FAIL	0	7	8	10	10	11	11	13	15	17	23	27	28	29	32	37	41	47
	SKIP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	CUT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BLOCK	0	19	22	29	30	33	33	37	44	51	66	78	81	83	92	105	116	132
	N/A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q&A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

9.2.10. 実績推移表をエクスポートする

実績推移表はエクセル形式でのエクスポートが可能です。

(1)　実績推移表右上の xlsx ボタンを押します。

(2)　ダイアログボックスが表示されたらダウンロード先を選択して保存ボタンを押します。



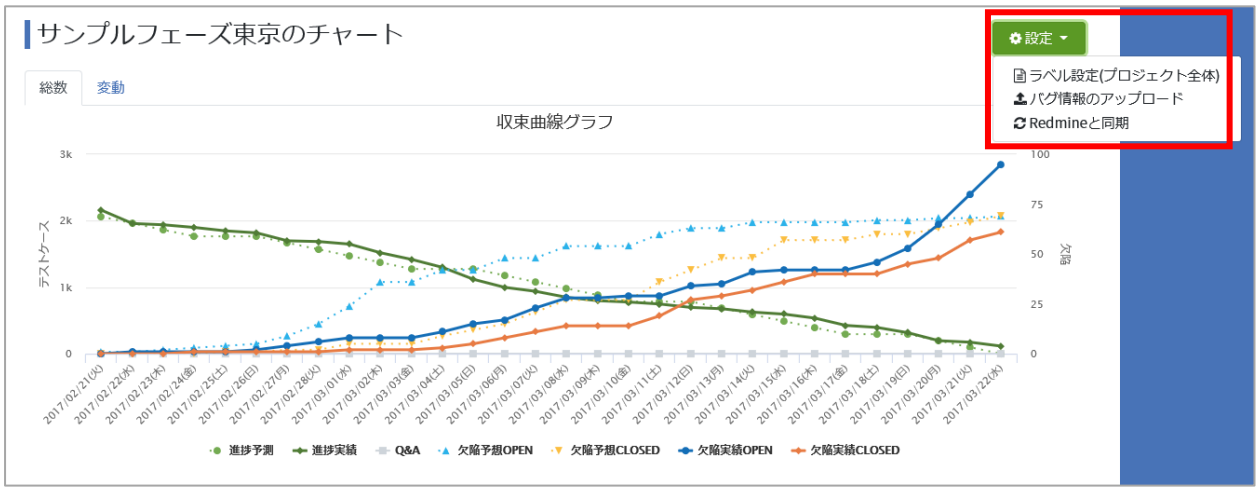
9.3. レポート設定

レポート画面での文言を自由に設定することができます。

9.3.1.　フッターのラベルを変更する

レポート画面最下部のコピーライトを書き換えることが可能です。

(1)　レポート画面右上の設定メニューからラベル設定リンクをクリックします。

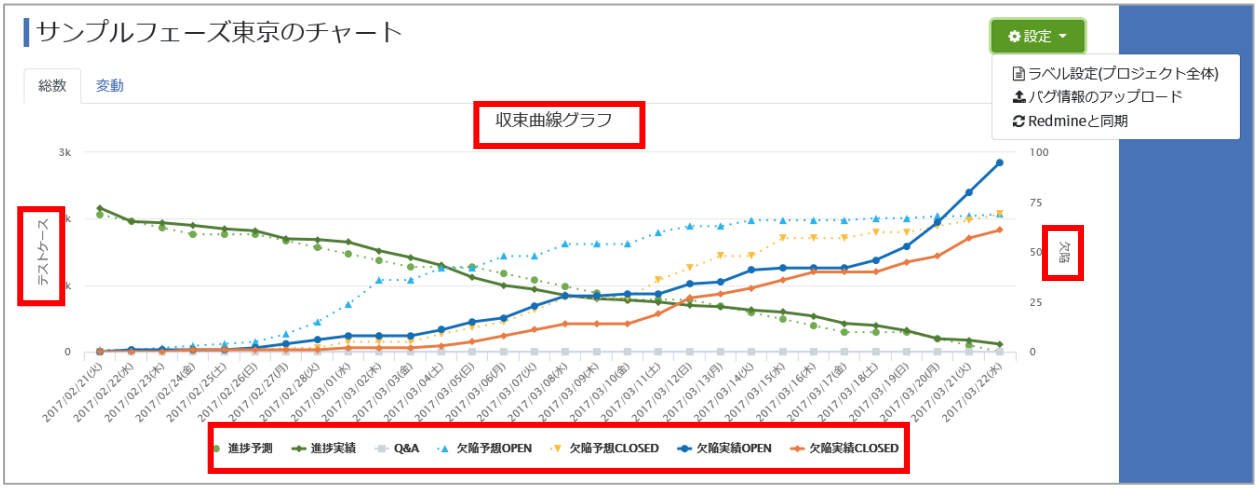


(2)　基本設定のフッターラベルに設定したい文字を入力を行います。

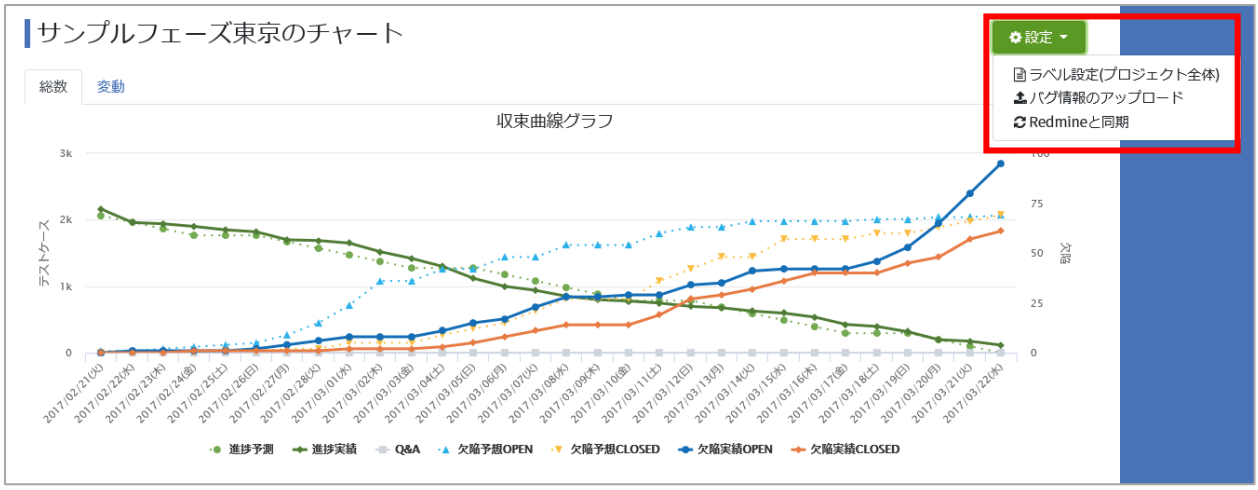
(3)　最下部の更新するボタンを押します。

9.3.2.　レポートのラベルを変更する

レポート画面のグラフに表示させるラベルの文言を自由に設定することができます。



(1)　レポート画面右上の設定メニューからラベル設定リンクをクリックします。



(2)　収束曲線グラフ設定のそれぞれの項目に設定したい文字を入力します。

(3)　最下部の更新するボタンを押します。

※初期値に戻したい場合はテキストボックスを空にして更新ボタンを押します。

第10章 チーム Wiki の管理

チーム内の情報共有の場としてチーム Wiki をご利用いただけます。本章ではチーム Wiki の利用方法について説明します。

10.1. チーム Wiki の作成

チーム Wiki の作成方法について説明します。

10.1.1. ページを新規作成する

(1) ダッシュボード画面左のメニューからチーム Wiki のリンクをクリックします。

(2) チーム Wiki トップページ右上の編集ボタンを押します。

(3)　共有したい内容を入力します。自由に入力が可能です。

(4)　プレビュータブで入力内容の確認ができます。

10.1.2. ファイルを添付する

(1)　画像を添付したい場合は、ページ編集画面右のファイル添付エリアにファイルをドロップす

るか、クリックします。

(2)　入力を全て終えたら更新するボタンを押します。

10.1.3. ページを追加する

チーム Wiki に既にページが存在する場合、新たにページを追加する方法を説明します。

(1)　チーム Wiki トップページ右上のページ一覧ボタンを押します。

(2)　チーム Wiki ページ一覧右上のページ追加ボタンを押します。

(3)　ページ名と内容を入力したら更新するボタンを押します。

10.2.　チーム Wiki を編集・削除する

チーム Wiki の情報を編集・削除する方法を説明します。ページの情報はチーム Wiki 画面からいつでも変更可能です。

10.2.1. ページを編集する

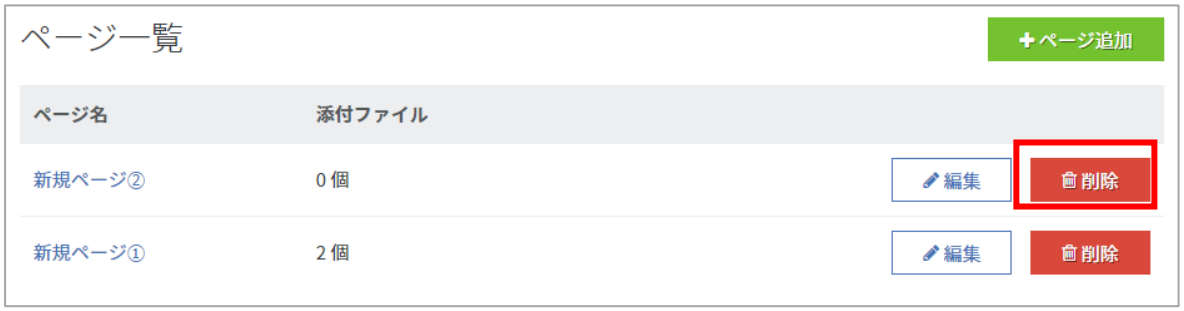
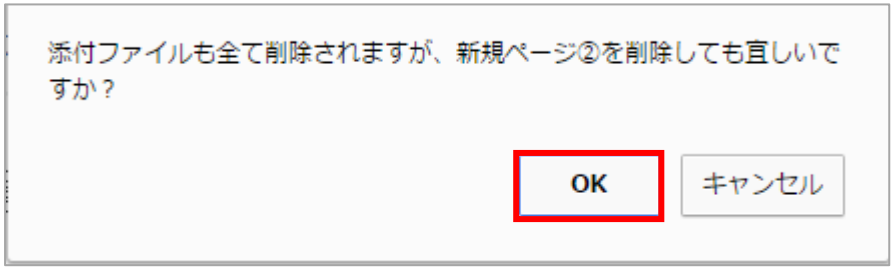
(1)　チーム Wiki トップページまたはページ一覧から編集ボタンを押します。

(2)　内容の編集が完了したら更新ボタンを押します。

10.2.2. ページを削除する

(1)　チーム Wiki トップページ右上のページ一覧ボタンを押します。

(2)　消したいページの右側の削除ボタンを押します。



(3)　確認メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。